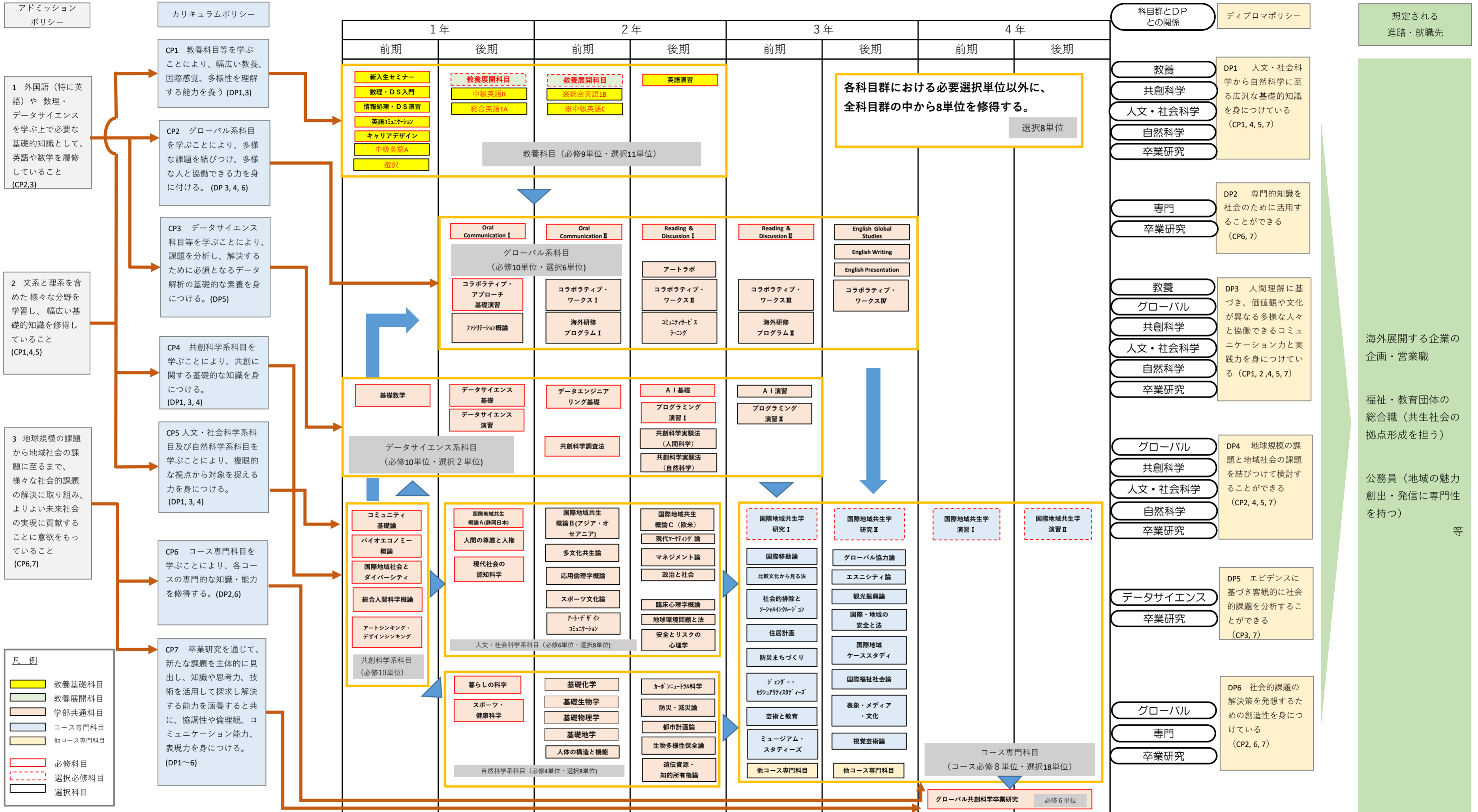


審査意見への対応を記載した書類（6月） 添付資料

- | | | | |
|-----|----------------|-----------|-----|
| 資料1 | グローバル共創科学部 | カリキュラムマップ | P1 |
| 資料2 | グローバル共創科学部 | 履修モデル | P4 |
| 資料3 | 科目群名称及び授業科目名称等 | 対応表 | P13 |
| 資料4 | シラバス | | P15 |

グローバル共創科学部 グローバル共創科学科 カリキュラムマップ (国際地域共生学コース)

※AP・CP・科目区分との関係を茶色の矢印、科目区分の体系性を青色の三角矢印で示す



※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養 (問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等) を身につけるための科目

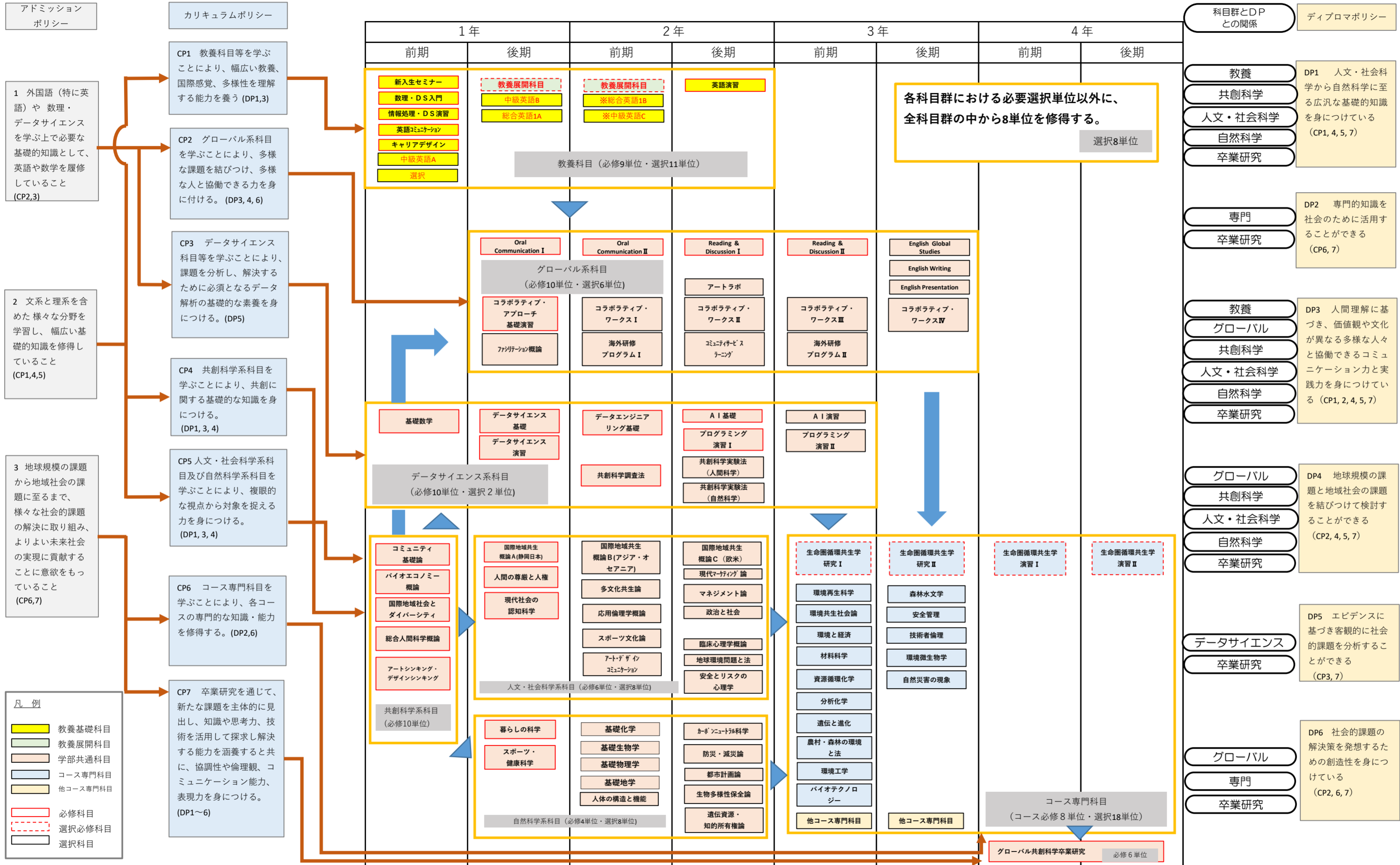
※選択必修科目…選択科目のうち、卒業要件において修得する単位数が定められている (※) 科目

(※) 卒業要件及び履修方法

<前略> なお、教養科目の選択科目11単位のうち、教養展開科目から4単位、また、コース専門科目の選択科目26単位のうち、

グローバル共創科学部 グローバル共創科学科 カリキュラムマップ (生命圏循環共生学コース)

※AP・CP・科目区分との関係を茶色の矢印、科目区分の体系性を青色の三角矢印で示す



※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養(問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等)を身につけるための科目

※選択必修科目…選択科目のうち、卒業要件において修得する単位数が定められている(※)科目

(※) 卒業要件及び履修方法

<前略> なお、教養科目の選択科目11単位のうち、教養展開科目から4単位、また、コース専門科目の選択科目26単位のうち、

企業・NPO等もしくは地方公共団体における環境政策系職員

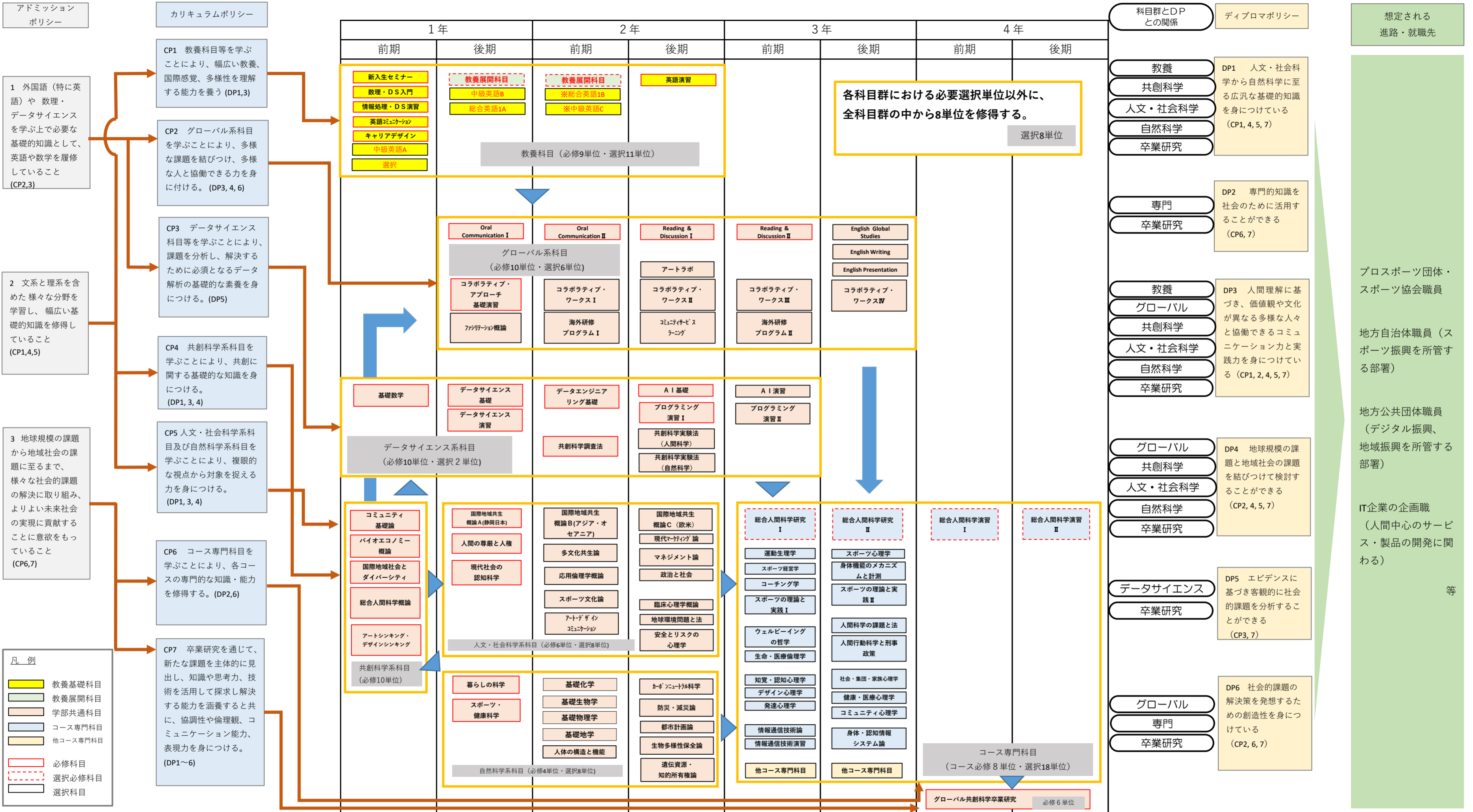
企業等工場の生産工程における品質管理担当職員

国家及び地方公共団体における防災系専門職

等

グローバル共創科学部 グローバル共創科学科 カリキュラムマップ（総合人間科学コース）

※AP・CP・科目区分との関係を茶色の矢印、科目区分の体系性を青色の三角矢印で示す



※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

※選択必修科目…選択科目のうち、卒業要件において修得する単位数が定められている（※）科目

（※）卒業要件及び履修方法
 <前略> なお、教養科目の選択科目11単位のうち、教養展開科目から4単位、また、コース専門科目の選択科目26単位のうち、

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 合計	卒業要件 単位数
	科目名		単位 前 後		科目名		単位 前 後		科目名		単位 前 後		科目名		単位 前 後			
教養 基 礎 科 目	新入生セミナー		2		中級英語C		2										20単位	
	数理・データサイエンス入門		1		英語演習		1									18		
	キャリアデザイン		1															6
情報処理・データサイエンス演習		2													24			
英語コミュニケーション		2														24		
健康体育実技Ⅰ		1															24	
中級英語A		2													24			
中級英語B		2														24		
総合英語ⅠA		2															24	
世界のことばと文化		2		経済と社会		2									24			
		2		科学と技術		2										24		
10科目		11	6	4科目		6	1	0科目		0	0	0科目		0			0	24
グ ロ ー バ ル 系 科 目	Oral Communication Ⅰ		2	Oral Communication Ⅱ		2		Reading & Discussion Ⅱ		2							16	
	コラボラティブ・アプローチ基礎演習		2	コラボラティブ・ワークスⅠ		1		海外研修プログラムⅡ		2					16			
	ファシリテーション概論		1	海外研修プログラムⅠ		2		Reading & Discussion Ⅰ		2						16		
3科目		0	5	4科目		5	2	2科目		2	2	0科目		0			0	16
デ ー タ サイ エ ン ス 系 科 目	基礎数学		2	データエンジニアリング基礎		2		プログラミング演習Ⅱ		1							12	
	データサイエンス基礎		1	共創科学調査法		2									12			
	データサイエンス演習		1	AI基礎		1		プログラミング演習Ⅰ		1						12		
3科目		2	2	5科目		4	3	1科目		1	0	0科目		0			0	12
共 創 科 学 系 科 目	コミュニティ基礎論		2														10	
	バイオエコノミー概論		2												10			
	国際地域社会とダイバーシティ		2													10		
アートシンキング・デザインシンキング		2												10				
総合人間科学概論		2															10	
5科目		10	0	0科目		0	0	0科目		0	0	0科目			0	0		10
人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	国際地域共生概論A（静岡・日本）		2	国際地域共生概論B（アジア・オセアニア）		2										18		
	人間の尊厳と人権		2	アート・デザインコミュニケーション		2									18			
	現代社会の認知科学		2	多文化共生論		2											18	
3科目		0	6	7科目		6	6	0科目		0	0	0科目		0		0		18
自 然 科 学 系 科 目	暮らしの科学		2	カーボンニュートラル科学		2										12		
	スポーツ・健康科学		2	防災・減災論		2									12			
			2	生物多様性保全論		2											12	
2科目		0	4	4科目		0	8	0科目		0	0	0科目		0		0		12
コ ー ス 専 門 科 目	国際地域共生学Ⅰ			国際地域共生学Ⅱ				国際地域共生学研究Ⅰ		2		国際地域共生学演習Ⅰ		2		26		
	国際移動論			防災まちづくり				国際移動論		2		国際地域共生学演習Ⅱ		2			26	
	芸術と教育			国際地域共生学研究Ⅱ				国際地域共生学研究Ⅱ		2					26			
環境と経済							グローバル協力論		2					26				
環境共生社会論							エスニシティ論		2							26		
環境再生科学															26			
情報通信技術論								情報通信技術論		1							26	
情報通信技術演習								情報通信技術演習		1						26		
0科目		0	0	0科目		0	0	12科目		16	6	2科目		2	2			26
学 部 共 通	卒業研究											グローバル共創科学卒業研究		6			6	
	0科目		0	0	0科目		0	0	0科目		0	0	1科目		6	6		
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する																	8単位	
単位総計	26科目	23	23	24科目	21	20	15科目	19	8	3科目	2	8	124	124単位以上				

※科目名欄の下線は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数	
	科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後				
教養科目	教養基礎科目	新入生セミナー	2		中級英語 C	2							18	20単位	
		数理・データサイエンス入門	1		英語演習	1									
		キャリアデザイン	1												
情報処理・データサイエンス演習		2													
英語コミュニケーション		2													
健康体育実技 I		1													
中級英語 A		2													
中級英語 B		2													
総合英語 I A	2														
教養展開科目			2		生物と環境 法と社会	2						6			
	10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	24		
グローバル系科目	グローバル系科目	Oral Communication I	2		Oral Communication II	2		Reading & Discussion II	2				18	16単位	
		コラボラティブ・アプローチ基礎演習	2		コラボラティブ・ワークス I	1		コラボラティブ・ワークス III	1						
		ファシリテーション概論	1		海外研修プログラム I	2		コラボラティブ・ワークス IV	1						
				Reading & Discussion I	2										
				コラボラティブ・ワークス II	1										
				コミュニティサービスラーニング	1										
	3科目	0	5	6科目	5	4	3科目	3	1	0科目	0	0	18		
学部共通科目	データサイエンス系科目	基礎数学	2		データエンジニアリング基礎	2		AI演習	1				12	12単位	
		データサイエンス基礎	1		共創科学調査法	2									
		データサイエンス演習	1		AI基礎	1									
					プログラミング演習 I	1									
				共創科学実験法（人間科学）	1										
		3科目	2	2	5科目	4	3	1科目	1	0	0科目	0	0	12	
	共創科学系科目	コミュニティ基礎論	2											10	10単位
		バイオエコノミー概論	2												
		国際地域社会とダイバーシティ	2												
		アートシンキング・デザインシンキング	2												
総合人間科学概論		2													
	5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	10		
人文・社会科学系科目	国際地域共生概論A（静岡・日本）	2		国際地域共生概論B（アジア・オセアニア）	2								16	14単位	
	人間の尊厳と人権	2		多文化共生論	2										
	現代社会の認知科学	2		臨床心理学概論	2										
				安全とリスクの心理学	2										
				国際地域共生概論C（欧米）	2										
	3科目	0	6	5科目	4	6	0科目	0	0	0科目	0	0	16		
自然科学系科目	暮らしの科学	2		人体の構造と機能	2								12	12単位	
	スポーツ・健康科学	2		生物多様性保全論	2										
				都市計画論	2										
				遺伝資源・知的所有権論	2										
	2科目	0	4	4科目	2	6	0科目	0	0	0科目	0	0	12		
コース専門科目	国際地域共生学 コース 専門科目						国際地域共生学研究 I	2		国際地域共生学演習 I	2		26	26単位	
							国際移動論	2		国際地域共生学演習 II	2				
							社会的排除とソーシャルインクルージョン	2							
							住居計画	2							
						ジェンダー・セクシュアリティスタディーズ	1								
						国際地域共生学研究 II	2								
						エスニシティ論	2								
						国際福祉社会論	2								
					国際地域ケーススタディ	1									
					表象・メディア・文化	2									
	0科目	0	0	0科目	0	0	13科目	11	11	2科目	2	2	26		
卒業研究	卒業研究									グローバル共創科学卒業研究	6		6	6単位	
											6				
	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	0	6	6		
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する													8	8単位	
単位総計	26科目	23	23	24科目	21	20	17科目	15	12	3科目	2	8	124	124単位以上	

※科目名欄の下線は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数	
	科目名	単 位	前 後	科目名	単 位	前 後	科目名	単 位	前 後	科目名	単 位	前 後			
教養 基 礎 科 目	新入生セミナー	2		中級英語 C	2								20 単 位	18	
	数理・データサイエンス入門	1		英語演習	1										
	キャリアデザイン	1													
情報処理・データサイエンス演習	2														
英語コミュニケーション	2														
健康体育実技 I	1														
中級英語 A	2														
中級英語 B	2														
総合英語 I A	2														
教養 展 開 科 目	世界のことばと文化	2		地域と文化	2										6
				数理の構造	2										
	10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	24		
グ ロ ー バ ル 系 科 目	Oral Communication I	2		Oral Communication II	2		Reading & Discussion II	2					16 単 位	18	
	コラボラティブ・アプローチ基礎演習	2		コラボラティブ・ワークス I	1		English Global Studies	2							
	ファンリレーション概論	1		海外研修プログラム I	2										
				Reading & Discussion I	2										
				コミュニティサービスラーニング	1										
				アートラボ	1										
		3科目	0	5	6科目	5	4	2科目	2	2	0科目	0			0
デ ー タ サイ エ ン ス 系 科 目	基礎数学	2		データエンジニアリング基礎	2		AI演習	1					12 単 位	12	
	データサイエンス基礎	1		共創科学調査法	2										
	データサイエンス演習	1		AI基礎	1										
				プログラミング演習 I	1										
				共創科学実験法（人間科学）	1										
	3科目	2	2	5科目	4	3	1科目	1	0	0科目	0	0	12		
共 創 科 学 系 科 目	コミュニティ基礎論	2											10 単 位	10	
	バイオエコノミー概論	2													
	国際地域社会とダイバーシティ	2													
	アートシンキング・デザインシンキング	2													
	総合人間科学概論	2													
	5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	10		
人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	国際地域共生概論A（静岡・日本）	2		国際地域共生概論B（アジア・オセアニア）	2								14 単 位	14	
	人間の尊厳と人権	2		スポーツ文化論	2										
	現代社会の認知科学	2		アート・デザインコミュニケーション	2										
				マネジメント論	1										
				現代マーケティング論	1										
	3科目	0	6	5科目	6	2	0科目	0	0	0科目	0	0	14		
自 然 科 学 系 科 目	暮らしの科学	2		人体の構造と機能	2								12 単 位	12	
	スポーツ・健康科学	2		防災・減災論	2										
				都市計画論	2										
				遺伝資源・知的所有権論	2										
	2科目	0	4	4科目	2	6	0科目	0	0	0科目	0	0	12		
コ ー ス 専 門 科 目							国際地域共生学研究 I	2		国際地域共生学演習 I	2		26 単 位	28	
							比較文化から見る法	1		国際地域共生学演習 II	2				
							住居計画	2							
							防災まちづくり	2							
							ミュージアム・スタディーズ	2							
							芸術と教育	2							
							社会的排除とソーシャルインクルージョン	2							
							国際地域共生学研究 II	2							
							国際・地域の安全と法	1							
							観光振興論	2							
							国際福祉社会論	2							
							表象・メディア・文化	2							
							視覚芸術論	2							
	0科目	0	0	0科目	0	0	13科目	13	11	2科目	2	2	28		
学 部 共 通	卒業研究									グローバル共創科学卒業研究	6		6 単 位	6	
		0科目	0	0	0科目	0	0	0	0	1科目	0	6			6
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する															8
単位総計	26科目	23	23	24科目	23	16	16科目	16	13	3科目	2	8	124	124単位以上	

※科目名欄の下線は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・養育・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数	
	科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後				
教養科目	教養基礎科目	新入生セミナー	2		中級英語 C	2							20	20	
		数理・データサイエンス入門	1		総合英語 I B	2									
		キャリアデザイン	1		英語演習	1									
情報処理・データサイエンス演習		2													
英語コミュニケーション		2													
健康体育実技 I		1													
中級英語 A		2													
中級英語 B		2													
総合英語 I A		2													
教養展開科目			2	法と社会	2							4			
		10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	24	
グローバル系科目	グローバル系科目	Oral Communication I	2		Oral Communication II	2		Reading & Discussion II	2				16	16	
		コラボラティブ・アプローチ基礎演習	2		コラボラティブ・ワークス I	1		English Global Studies	2						
		ファシリテーション概論	1		海外研修プログラム I	2									
				Reading & Discussion I	2										
		3科目	0	5	4科目	5	2	2科目	2	2	0科目	0	0	16	
データサイエンス系科目	データサイエンス系科目	基礎数学	2		データエンジニアリング基礎	2		AI演習	1				12	12	
		データサイエンス基礎	1		共創科学調査法	2									
		データサイエンス演習	1		AI基礎	1									
				プログラミング演習 I	1										
		3科目	2	2	5科目	4	3	1科目	1	0	0科目	0	0	12	
共創科学系科目	共創科学系科目	コミュニティ基礎論	2										10	10	
		バイオエコノミー概論	2												
		国際地域社会とダイバーシティ	2												
アートシンキング・デザインシンキング		2													
総合人間科学概論		2													
		5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	10	
人文・社会科学系科目	人文・社会科学系科目	国際地域共生概論A (韓国・日本)	2		多文化共生論	2		国際地域共生概論B (アジア・オセアニア)	2				18	18	
		人間の尊厳と人権	2		応用倫理学概論	2		国際地域共生概論C (欧米)	2						
		現代社会の認知科学	2		政治と社会	1									
				マネジメント論	1										
		3科目	0	6	5科目	4	4	2科目	2	2	0科目	0	0	18	
自然科学系科目	自然科学系科目	暮らしの科学	2		基礎化学	2							12	12	
		スポーツ・健康科学	2		都市計画論	2									
					防災・減災論	2									
				生物多様性保全論	2										
		2科目	0	4	4科目	2	6	0科目	0	0	0科目	0	0	12	
国際地域共生	国際地域共生							防災まちづくり	2				26	26	
								国際福祉社会論	2						
コース専門科目	コース専門科目							生命圏循環共生学研究 I	2		生命圏循環共生学演習 I	2	26	26	
								環境再生科学	2		生命圏循環共生学演習 II	2			
								農村・森林の環境と法	2						
							環境と経済	2							
								環境工学	2						
								環境共生社会論	2						
								生命圏循環共生学研究 II	2						
								技術者倫理	1						
								自然災害の現象	2						
		0科目	0	0	0科目	0	0	12科目	15	7	2科目	2	2	26	
学部共通	卒業研究										グローバル共創科学卒業研究	6	6	6	
											1科目	0			6
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する														8	8
単位総計		26科目	23	23	22科目	21	16	17科目	20	11	3科目	2	8	124	124単位以上

※科目名欄の下線は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位合計	卒業要件 単位数	
	科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後				
教養科目	教養基礎科目	新入生セミナー	2		中級英語 C	2							20	20単位	
		数理・データサイエンス入門	1		総合英語 I B	2									
		キャリアデザイン	1		英語演習		1								
情報処理・データサイエンス演習		2													
英語コミュニケーション		2													
健康体育実技 I		1													
中級英語 A		2													
中級英語 B			2												
総合英語 I A		2													
教養展開科目	世界のことばと文化		2	芸術論	2							4			
	10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	24		
学部 共通科目	グローバル系科目	Oral Communication I		2	Oral Communication II	2		Reading & Discussion II	2				16	16単位	
		コラボラティブ・アプローチ基礎演習		2	Reading & Discussion I	2		海外研修プログラム II	2						
		ファシリテーション概論		1	海外研修プログラム I	2		アートラボ	1						
		3科目	0	5	4科目	4	3	2科目	2	2	0科目	0	0	16	
	データサイエンス系科目	基礎数学	2		データエンジニアリング基礎	2		AI演習	1				13	12単位	
		データサイエンス基礎		1	共創科学調査法	2		プログラミング演習 II	1						
		データサイエンス演習		1	AI基礎		1								
		3科目	2	2	5科目	4	3	2科目	2	0	0科目	0	0	13	
	共創科学系科目	コミュニティ基礎論	2										10	10単位	
		バイオエコノミー概論	2												
国際地域社会とダイバーシティ		2													
アートシンキング・デザインシンキング		2													
総合人間科学概論		2													
	5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	10		
人文・社会科学系科目	国際地域共生概論A (韓国・日本)		2	アート・デザインコミュニケーション	2							14	14単位		
	人間の尊厳と人権		2	安全とリスクの心理学		2									
	現代社会の認知科学		2	地球環境問題と法		2									
	3科目	0	6	5科目	2	6	0科目	0	0	0科目	0	0	14		
自然科学系科目	暮らしの科学		2	基礎化学	2		カーボンニュートラル科学	2				14	12単位		
	スポーツ・健康科学		2	基礎生物学	2										
				基礎物理学	2										
	2科目	0	4	4科目	8	0	1科目	0	2	0科目	0	0	14		
コース 専門科目	国際地域共生											27	26単位		
		生命圏循環共生学						生命圏循環共生学研究 I	2		生命圏循環共生学演習 I			2	
	コース専門科目							環境再生科学	2		生命圏循環共生学演習 II	2	2		
								資源循環化学	2						
								分析化学	2						
								環境工学	2						
								遺伝と進化	2						
								材料科学	2						
								バイオテクノロジー	2						
								生命圏循環共生学研究 II	2						
								環境微生物学	2						
								安全管理	2						
								技術者倫理	1						
	0科目	0	0	0科目	0	0	12科目	16	7	2科目	2	2	27		
学部 共通	卒業研究									グローバル共創科学卒業研究		6	6	6単位	
		0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	0			6
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する													8	8単位	
単位総計		26科目	23	23	22科目	24	13	17科目	20	11	3科目	2	8	124	124単位以上

※科目名欄の下線一は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 合計	卒業要件 単位数	
	科目名		単位 前 後		科目名		単位 前 後		科目名		単位 前 後		科目名		単位 前 後				
教養 科目	教養 基礎 科目	新入生セミナー	2		中級英語 C	2											20	20	
		数理・データサイエンス入門	1		総合英語 I B	2													
		キャリアデザイン	1		英語演習	1													
情報処理・データサイエンス演習		2																	
英語コミュニケーション		2																	
健康体育実技 I		1																	
中級英語 A		2																	
中級英語 B			2																
総合英語 I A			2																
教養 展開 科目		世界のことばと文化		2	芸術論		2									4			
		10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	0	0	24			
学部 共通 科目	グ ロ ー バ ル 系 科 目	Oral Communication I		2	Oral Communication II		2	Reading & Discussion II		2							16	16	
		コラボラティブ・アプローチ基礎演習		2	コラボラティブ・ワークス I		1	English Presentation		2									
		海外研修プログラム I		2	Reading & Discussion I		2	コミュニティサービスラーニング		1									
			3科目	0	6	4科目	3	3	2科目	2	2	0科目	0	0	0	0	16		
	デ ィ タ サイ エ ン ス 系 科 目	基礎数学		2	データエンジニアリング基礎		2	AI演習		1								12	12
		データサイエンス基礎		1	共創科学調査法		2												
		データサイエンス演習		1	AI基礎		1	プログラミング演習 I		1									
			3科目	2	2	5科目	4	3	1科目	1	0	0科目	0	0	0	0	12		
	共 創 科 学 系 科 目	コミュニティ基礎論		2														10	10
		バイオエコノミー概論		2															
		国際地域社会とダイバーシティ		2															
		アートシンキング・デザインシンキング		2															
総合人間科学概論			2																
		5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0	0	10			
人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	国際地域共生概論A（静岡・日本）		2	多文化共生論		2	マネジメント論		1								14	14	
	人間の尊厳と人権		2	アート・デザインコミュニケーション		2	政治と社会		1										
	現代社会の認知科学		2	安全とリスクの心理学		2	地球環境問題と法		2										
		3科目	0	6	4科目	4	4	2科目	0	2	0科目	0	0	0	0	16			
自 然 科 学 系 科 目	暮らしの科学		2	基礎化学		2	防災・減災論		2								12	14	
	スポーツ・健康科学		2	基礎生物学		2													
			2	基礎地学		2	都市計画論		2										
		2科目	0	4	4科目	6	2	1科目	0	2	0科目	0	0	0	0	14			
コ ー ス 専 門 科 目	国 際 地 域 専 門 共 生 学							防災まちづくり		2							26	26	
	生 命 圏 循 環 共 生 学 コ ー ス 専 門 科 目							生命圏循環共生学研究 I		2	生命圏循環共生学演習 I		2						
								農村・森林の環境と法		2	生命圏循環共生学演習 II		2						
								環境共生社会論		2									
							環境再生科学		2										
							生命圏循環共生学研究 II		2										
							技術者倫理		1										
							自然災害の現象		2										
							安全管理		2										
							森林水文学		2										
							情報通信技術論		1										
		0科目	0	0	0科目	0	0	12科目	13	9	2科目	2	2	2	2	26			
学 部 共 通 科 目	卒 業 研 究										グローバル共創科学卒業研究		6			6	6	6	
			0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	0	6	6				
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する																	8	8	
単位総計		26科目	23	24	21科目	23	13	18科目	16	15	3科目	2	8	124	124	124	124	124	

※科目名欄の下線一は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

グローバル共創科学部総合人間科学コース履修モデル①

プロスポーツ団体・スポーツ協会職員、地方自治体職員（スポーツ振興を所管する部署）

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位合計	卒業要件 単位数
	科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後			
教養科目	新入生セミナー	2		中級英語C	2								20	20単位
	教理・データサイエンス入門	1		総合英語 I B	2									
	キャリアデザイン	1		英語演習	1									
教養 基礎 科目	情報処理・データサイエンス演習	2												
	英語コミュニケーション	2												
	健康体育実技 I	1												
教養 展開 科目	中級英語 A	2												
	中級英語 B	2												
	総合英語 I A	2												
	世界のことばと文化	2		経済と社会	2								4	
	10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	24	
グローバル 系 科目	Oral Communication I	2		Oral Communication II	2		Reading & Discussion II	2					16	16単位
	コラボティブ・アプローチ基礎演習	2		コラボティブ・ワークス I	1		English Writing	2						
				海外研修プログラム I	2									
			Reading & Discussion I	2										
			コラボティブ・ワークス II	1										
	2科目	0	4	5科目	5	3	2科目	2	2	0科目	0	0	16	
データ サイ エ ン ス 系 科 目	基礎数学	2		データエンジニアリング基礎	2		AI演習	1					12	12単位
	データサイエンス基礎	1		共創科学調査法	2									
	データサイエンス演習	1		AI基礎	1									
			プログラミング演習 I	1										
			共創科学実験法（人間科学）	1										
	3科目	2	2	5科目	4	3	1科目	1	0	0科目	0	0	12	
共創 科 学 系 科 目	コミュニティ基礎論	2											10	10単位
	バイオエコノミー概論	2												
	国際地域社会とダイバーシティ	2												
	アートシンキング・デザインシンキング	2												
	総合人間科学概論	2												
	5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	10	
人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	国際地域共生概論A（静岡・日本）	2		スポーツ文化論	2								16	14単位
	人間の尊厳と人権	2		多文化共生論	2									
	現代社会の認知科学	2		安全とリスクの心理学	2									
			臨床心理学概論	2										
			政治と社会	1										
			現代マーケティング論	1										
	3科目	0	6	6科目	4	6	0科目	0	0	0科目	0	0	16	
自 然 科 学 系 科 目	暮らしの科学	2		人体の構造と機能	2								12	12単位
	スポーツ・健康科学	2		カーボンニュートラル科学	2									
				防災・減災論	2									
			都市計画論	2										
	2科目	0	4	4科目	2	6	0科目	0	0	0科目	0	0	12	
学 科 専 門 科 目	国際地域共生												28	26単位
	生命環境共生													
	総合人間科学 コース 専 門 科 目						総合人間科学研究 I	2		総合人間科学演習 I	2			
							運動生理学	2		総合人間科学演習 II	2	2		
							スポーツの理論と実践 I	1						
							スポーツ経営学	2						
							コーチング学	2						
							情報通信技術論	1						
							ウェルビーイングの哲学	1						
							生命・医療倫理学	1						
							知覚・認知心理学	1						
							デザイン心理学	1						
							総合人間科学研究 II	2						
							身体機能のメカニズムと計測	2						
							スポーツの理論と実践 II	1						
							健康・医療心理学	1						
							コミュニティ心理学	1						
							人間科学の課題と法	1						
							スポーツ心理学	2						
	0科目	0	0	0科目	0	0	17科目	14	10	2科目	2	2	28	
学 部 共 通 科 目	卒業研究									グローバル共創科学卒業研究		6	6	6単位
	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0	1科目	0	6	6	
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する													8	8単位
単位総計	25科目	23	22	24科目	21	19	20科目	17	12	3科目	2	8	124	124単位以上

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数		
	科目名	単 位 前 後		科目名	単 位 前 後		科目名	単 位 前 後		科目名	単 位 前 後					
教養 基 礎 科 目	新入生セミナー	2		中級英語 C	2								20	20単位		
	数理・データサイエンス入門	1		総合英語 I B	2											
	キャリアデザイン	1		英語演習	1											
情報処理・データサイエンス演習	2															
英語コミュニケーション	2															
健康体育実技 I	1															
中級英語 A	2															
中級英語 B	2															
総合英語 I A	2															
教養 展 開 科 目	世界のことばと文化	2		経済と社会	2							4				
	10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	24			
グ ロ ー バ ル 系 科 目	Oral Communication I	2		Oral Communication II	2		Reading & Discussion II	2					16	16単位		
	コラボラティブ・アプローチ基礎演習	2		コラボラティブ・ワークス I	1		English Writing	2								
				海外研修プログラム I	2											
			Reading & Discussion I	2												
			コラボラティブ・ワークス II	1												
	2科目	0	4	5科目	5	3	2科目	2	2	0科目	0	0			16	
デ ィ タ サイ エ ン ス 系 科 目	基礎数学	2		データエンジニアリング基礎	2		AI演習	1							12	12単位
	データサイエンス基礎	1		共創科学調査法	2											
	データサイエンス演習	1		AI基礎	1											
			プログラミング演習 I	1												
			共創科学実験法（人間科学）	1												
	3科目	2	2	5科目	4	3	1科目	1	0	0科目	0	0	12			
共 創 科 学 系 科 目	コミュニティ基礎論	2											10	10単位		
	バイオエコノミー概論	2														
	国際地域社会とダイバーシティ	2														
アートシンキング・デザインシンキング	2															
総合人間科学概論	2															
	5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0	0			10	
人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	国際地域共生概論A（韓国・日本）	2		スポーツ文化論	2										18	14単位
	人間の尊厳と人権	2		多文化共生論	2											
	現代社会の認知科学	2		アート・デザインコミュニケーション	2											
			安全とリスクの心理学	2												
			現代マーケティング論	1												
			臨床心理学概論	2												
			政治と社会	1												
	3科目	0	6	7科目	6	6	0科目	0	0	0科目	0	0	18			
自 然 科 学 系 科 目	暮らしの科学	2		人体の構造と機能	2								12	12単位		
	スポーツ・健康科学	2		カーボンニュートラル科学	2											
				防災・減災論	2											
			都市計画論	2												
	2科目	0	4	4科目	2	6	0科目	0	0	0科目	0	0			12	
コ ー ス 専 門 科 目	国際 ス テ ィ ア 専 門 共 生 科 学						防災まちづくり	2							26	26単位
	学 生 コ ー ス 専 門 共 生 科 学															
	総 合 人 間 科 学 コ ー ス 専 門 科 目						総合人間科学研究 I	2		総合人間科学演習 I	2					
						情報通信技術論	1		総合人間科学演習 II	2						
						情報通信技術演習	1									
						ウェルビーイングの哲学	1									
						生命・医療倫理学	1									
						運動生理学	2									
						スポーツ経営学	2									
						デザイン心理学	1									
						総合人間科学研究 II	2									
						身体・認知情報システム論	2									
						人間科学の課題と法	1									
						人間行動科学と刑事政策	1									
						コミュニティ心理学	1									
						社会・集団・家族心理学	2									
	0科目	0	0	0科目	0	0	15科目	13	9	2科目	2	2	26			
学 部 共 通 科 目	卒 業 研 究									グローバル共創科学卒業研究	6		6	6単位		
		0科目	0	0	0科目	0	0	0	0	1科目	0	6				
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する													8	8単位		
単位総計	25科目	23	22	25科目	23	19	18科目	16	11	3科目	2	8	124	124単位以上		

※科目名欄の下線は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			単位 合計	卒業要件 単位数				
	科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後		科目名	単位 前 後							
教養 科目	教養 基礎 科目	新入生セミナー	2		中級英語 C	2							20	20				
		数理・データサイエンス入門	1		総合英語 I B	2												
		キャリアデザイン	1		英語演習		1											
情報処理・データサイエンス演習		2																
英語コミュニケーション		2																
健康体育実技 I		1																
中級英語 A		2																
中級英語 B			2															
総合英語 I A			2															
教養 展開 科目			2	経済と社会	2								4					
		10科目	11	6	4科目	6	1	0科目	0	0	0科目	0	0	24				
グ ロ ー バ ル 系 科 目	グ ロ ー バ ル 系 科 目	Oral Communication I		2	Oral Communication II	2		Reading & Discussion II	2				16	16				
		コラボラティブ・アプローチ基礎演習		2	コラボラティブ・ワークス I	1		海外研修プログラム II	2									
					海外研修プログラム I	2												
				Reading & Discussion I	2													
				コラボラティブ・ワークス II	1													
			2科目	0	4	5科目	5	3	2科目	2	2	0科目			0	0	16	
デ ー タ サイ エ ンス 系 科 目		デ ー タ サイ エ ンス 系 科 目	基礎数学	2		データエンジニアリング基礎	2		AI演習	1						12	12	
			データサイエンス基礎		1	共創科学調査法	2											
			データサイエンス演習		1	AI基礎		1										
				プログラミング演習 I		1												
				共創科学実験法（人間科学）		1												
			3科目	2	2	5科目	4	3	1科目	1	0	0科目	0	0	12			
共 創 科 学 系 科 目	共 創 科 学 系 科 目		コミュニティ基礎論	2										10	10			
			バイオエコノミー概論	2														
			国際地域社会とダイバーシティ	2														
アートシンキング・デザインシンキング		2																
総合人間科学概論		2																
			5科目	10	0	0科目	0	0	0科目	0	0	0科目	0			0	10	
人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目		人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	国際地域共生概論A（静岡・日本）		2	スポーツ文化論	2									16	16	
			人間の尊厳と人権		2	多文化共生論	2											
			現代社会の認知科学		2	応用倫理学概論	2											
				臨床心理学概論		2												
				安全とリスクの心理学		2												
			3科目	0	6	5科目	6	4	0科目	0	0	0科目	0	0	16			
自 然 科 学 系 科 目	自 然 科 学 系 科 目		暮らしの科学		2	人体の構造と機能	2							12	12			
			スポーツ・健康科学		2	カーボンニュートラル科学		2										
						防災・減災論		2										
				都市計画論		2												
			2科目	0	4	4科目	2	6	0科目	0	0	0科目	0			0	12	
学 科 共 通 専 門 科 目		学 科 共 通 専 門 科 目	国際地域共生						住居計画	2						26	26	
			生命圏循環共						技術者倫理	1								
									総合人間科学研究 I	2		総合人間科学演習 I	2					
								発達心理学	2		総合人間科学演習 II	2						
								知覚・認知心理学	1									
								ウェルビーイングの哲学	1									
								生命・医療倫理学	1									
								情報通信技術論	1									
							情報通信技術演習	1										
							デザイン心理学	1										
							総合人間科学研究 II	2										
							社会・集団・家族心理学	2										
							スポーツ心理学	2										
							健康・医療心理学	1										
							コミュニティ心理学	1										
							身体・認知情報システム論	2										
							人間科学の課題と法	1										
		0科目	0	0	0科目	0	0	17科目	12	12	2科目	2	2	28				
学 部 共 通 専 門 科 目	卒 業 研										グローバル共創科学卒業研究		6	6	6			
											1科目	0	6	6				
各科目群における必要選択単位以外に全科目群の中から8単位を修得する														8	8			
単位総計		25科目	23	22	23科目	23	17	20科目	15	14	3科目	2	8	124	124単位以上			

※科目名欄の下線―は必修科目を示す。

※教養基礎科目…在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目

※教養展開科目…広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目

科目群名称及び授業科目名称等対応表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	
学部 共通科目	外国語科目	Oral Communication I	1前	2	
		Oral Communication II	1後	2	
		Reading & Discussion I	2前	2	
		Reading & Discussion II	2後	2	
		English Writing	3前		2
		English Presentation	3前		2
		English Global Studies	3後		2
		小計(7科目)	—	8	6
	工数 理・デ ータサイ 科目	データサイエンス基礎	1後	1	
		データサイエンス演習	1後	1	
		データエンジニアリング基礎	2前	2	
		AI基礎	2後	1	
		プログラミング演習 I	2後	1	
AI演習		3前		1	
プログラミング演習 II		3前		1	
小計(7科目)	—	6	2		
地域・ グロ ーバル 演習 科目	コラボラティブ・アプローチ基礎演習	1後	2		
	海外研修プログラム I	1・2		1	
	海外研修プログラム II	3・4		2	
	コラボラティブ・ワークス I	2前		1	
	コラボラティブ・ワークス II	2後		1	
	コラボラティブ・ワークス III	3前		1	
	コラボラティブ・ワークス IV	3後		1	
	コミュニティサービスラーニング	2後		2	
	共創科学調査法	2前		2	
	共創科学実験法 (人間科学)	2後		1	
	共創科学実験法 (自然科学)	2後		1	
	ファシリテーション概論	1集中		1	
	アートラボ	2前		1	
小計(13科目)	—	2	15		
共創 科学 コア 科目	総合人間科学概論	1前	2		
	バイオエコノミー概論	1前	2		
	国際地域社会とダイバーシティ	1前	2		
	コミュニティ基礎論	1前	2		
	暮らしの科学	1後	2		
	人間の尊厳と人権	1後	2		
	アートシンキング・デザインシンキング	1後	2		
	応用倫理学概論	1後	2		
	現代社会の認知科学	1後	2		
	国際地域創造概論 I (静岡・日本)	1後	2		
	スポーツ・健康科学	1後	2		
	マネジメント論	2前		1	
	カーボンニュートラル科学	2前		2	
	防災・減災論	2前		2	
	国際地域創造概論 II (アジア・オセアニア)	2前		2	
	政治と社会	2後		1	
	多文化共生論	2前		2	
	人体の構造と機能	2後		2	
	環境政策と法	2後		2	
	臨床心理学概論	2後		2	
	スポーツ文化論	2前		2	
	生物多様性保全論	2前		2	
	国際地域創造概論 III (欧米)	2後		2	
	安全とリスクの心理学	2前		2	
	遺伝資源・知的所有権論	2後		2	
	都市計画論	2後		2	
	現代マーケティング論	2後		1	
	アート・デザインコミュニケーション	2後		2	
小計(28科目)	—	22	31		
専 門 科 目	コ ー ス 専 門 科 目	生命圏循環共生学研究 I	3前	2	
		生命圏循環共生学研究 II	3後	2	
		生命圏循環共生学演習 I	4前	2	
		生命圏循環共生学演習 II	4後	2	
		国際地域創造学研究 I	3前	2	
		国際地域創造学研究 II	3後	2	
		小計(8科目)	—	16	0



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	
学部 共通科目	グ ロ ー バ ル 系 科 目	Oral Communication I	1後	2	
		Oral Communication II	2前	2	
		Reading & Discussion I	2後	2	
		Reading & Discussion II	3前	2	
		English Writing	3後		2
		English Presentation	3後		2
		English Global Studies	3後		2
		コラボラティブ・アプローチ基礎演習	1後	2	
		海外研修プログラム I	1・2前・後		2
		海外研修プログラム II	3前・後		2
		コラボラティブ・ワークス I	2前		1
		コラボラティブ・ワークス II	2後		1
		コラボラティブ・ワークス III	3前		1
		コラボラティブ・ワークス IV	3後		1
		コミュニティサービスラーニング	2後		1
		ファシリテーション概論	1後		1
		アートラボ	2後		1
小計(17科目)	—	10	17		
デ ー タ サイ エ ン ス 系 科 目	デ ー タ サイ エ ン ス 系 科 目	基礎数学	1前	2	
		データサイエンス基礎	1後	1	
		データサイエンス演習	1後	1	
		データエンジニアリング基礎	2前	2	
		AI基礎	2後	1	
		プログラミング演習 I	2後	1	
		AI演習	3前		1
		プログラミング演習 II	3前		1
		共創科学調査法	2前	2	
		共創科学実験法 (人間科学)	2後		1
		共創科学実験法 (自然科学)	2後		1
小計(11科目)	—	10	4		
共 創 科 学 系 科 目	共 創 科 学 系 科 目	総合人間科学概論	1前	2	
		バイオエコノミー概論	1前	2	
		国際地域社会とダイバーシティ	1前	2	
		コミュニティ基礎論	1前	2	
		アートシンキング・デザインシンキング	1前	2	
		小計(5科目)	—	10	0
人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	人 文 ・ 社 会 科 学 系 科 目	国際地域共生概論A (静岡・日本)	1後	2	
		人間の尊厳と人権	1後	2	
		現代社会の認知科学	1後	2	
		応用倫理学概論	2前		2
		マネジメント論	2後		1
		国際地域共生概論B (アジア・オセアニア)	2前		2
		政治と社会	2後		1
		多文化共生論	2前		2
		地球環境問題と法	2後		2
		臨床心理学概論	2後		2
		スポーツ文化論	2前		2
		国際地域共生概論C (欧米)	2後		2
		安全とリスクの心理学	2後		2
		現代マーケティング論	2後		1
		アート・デザインコミュニケーション	2前		2
小計(15科目)	—	6	21		
自 然 科 学 系 科 目	自 然 科 学 系 科 目	暮らしの科学	1後	2	
		スポーツ・健康科学	1後	2	
		人体の構造と機能	2前		2
		カーボンニュートラル科学	2後		2
		防災・減災論	2後		2
		生物多様性保全論	2後		2
		遺伝資源・知的所有権論	2後		2
		都市計画論	2後		2
		基礎生物学	2前		2
		基礎化学	2前		2
		基礎物理学	2前		2
		基礎地学	2前		2
小計(12科目)	—	4	20		

専門科目	コース専門科目	国際地域創造学演習Ⅰ	4前	2			
		国際地域創造学演習Ⅱ	4後	2			
		総合人間科学研究Ⅰ	3前	2			
		総合人間科学研究Ⅱ	3後	2			
		総合人間科学演習Ⅰ	4前	2			
		総合人間科学演習Ⅱ	4後	2			
		環境再生科学	3前		2		
		安全管理	3後		2		
		資源循環化学	3前		2		
		資源再生材料学	3前		2		
		環境共生社会論	3前		2		
		自然災害の現象	3前		2		
		森林水文学	3後		2		
		環境と経済	3前		2		
		基礎生物学	3前		2		
		基礎化学	3前		2		
		遺伝と進化	3前		2		
		グローバル協力論	3後		2		
		国際移動論	3前		2		
		エスニシティ論	3後		2		
		観光振興論	3後		2		
		比較文化から見る法	3前		1		
		国際・地域の安全と法	3後		1		
		社会的排除とソーシャルインクルージョン	3前		2		
		国際地域ケーススタディ	3後		1		
		国際福祉社会論	3後		2		
		住居計画	3前		2		
		防災まちづくり	3前		2		
		ジェンダー・セクシュアリティスタディーズ	3前		1		
		表象・メディア・文化	3後		2		
		視覚芸術論	3後		2		
		芸術と教育	2前・3前・4前		2		
		ミュージアム・スタディーズ	2前・3前・4前		2		
		発達心理学	3前		2		
		知覚・認知心理学	3前		1		
		デザイン心理学	3前		1		
		社会・集団・家族心理学	3後		2		
		身体・認知情報システム論	3後		2		
		情報通信技術論	3前		1		
		情報通信技術演習	3前		1		
		健康・医療心理学	3後		1		
		コミュニティ心理学	3後		1		
		運動生理学	3前		2		
		身体機能のメカニズムと計測	3後		2		
		スポーツ経営学	3前		2		
		スポーツ心理学	3後		2		
		コーチング学	3前		2		
		スポーツの理論と実践Ⅰ	3前		1		
		スポーツの理論と実践Ⅱ	3後		1		
		人間科学の課題と法	3後		1		
		人間行動科学と刑事政策	3後		1		
		ウェルビーイングの哲学	3前		1		
		生命・医療倫理学	3前		1		
		小計(59科目)	—	24	78		
		通学 科目共	卒業 研究	グローバル共創科学卒業研究	4通	6	



コース専門科目	国際地域共生学コース専門科目	国際地域共生学研究Ⅰ	3前		2
		国際地域共生学研究Ⅱ	3後		2
		国際地域共生学演習Ⅰ	4前		2
		国際地域共生学演習Ⅱ	4後		2
		グローバル協力論	3後		2
		国際移動論	3前		2
		エスニシティ論	3後		2
		観光振興論	3後		2
		比較文化から見る法	3前		1
		国際・地域の安全と法	3後		1
		社会的排除とソーシャルインクルージョン	3前		2
		国際地域ケーススタディ	3後		1
		国際福祉社会論	3後		2
		住居計画	3前		2
		防災まちづくり	3前		2
		ジェンダー・セクシュアリティスタディーズ	3前		1
		表象・メディア・文化	3後		2
		視覚芸術論	3後		2
		芸術と教育	3前		2
		ミュージアム・スタディーズ	3前		2
小計(20科目)	—	0	36		
生命研 循環共 生学コ ース專 門科目	生命研 循環共 生学コ ース專 門科目	生命圏循環共生学研究Ⅰ	3前		2
		生命圏循環共生学研究Ⅱ	3後		2
		生命圏循環共生学演習Ⅰ	4前		2
		生命圏循環共生学演習Ⅱ	4後		2
		環境再生科学	3前		2
		安全管理	3後		2
		資源循環化学	3前		2
		材料科学	3前		2
		環境共生社会論	3前		2
		自然災害の現象	3後		2
		森林水文学	3後		2
		環境と経済	3前		2
		遺伝と進化	3前		2
		分析化学	3前		2
		農村・森林の環境と法	3前		2
		環境工学	3前		2
		バイオテクノロジー	3前		2
		技術者倫理	3後		1
		環境微生物学	3後		2
小計(19科目)	—	0	37		
総合人 間科学 コース 専門科 目	総合人 間科学 コース 専門科 目	総合人間科学研究Ⅰ	3前		2
		総合人間科学研究Ⅱ	3後		2
		総合人間科学演習Ⅰ	4前		2
		総合人間科学演習Ⅱ	4後		2
		発達心理学	3前		2
		知覚・認知心理学	3前		1
		デザイン心理学	3前		1
		社会・集団・家族心理学	3後		2
		身体・認知情報システム論	3後		2
		情報通信技術論	3前		1
		情報通信技術演習	3前		1
		健康・医療心理学	3後		1
		コミュニティ心理学	3後		1
		運動生理学	3前		2
		身体機能のメカニズムと計測	3後		2
		スポーツ経営学	3前		2
		スポーツ心理学	3後		2
		コーチング学	3前		2
		スポーツの理論と実践Ⅰ	3前		1
		スポーツの理論と実践Ⅱ	3後		1
		人間科学の課題と法	3後		1
		人間行動科学と刑事政策	3後		1
		ウェルビーイングの哲学	3前		1
		生命・医療倫理学	3前		1
小計(24科目)	—	0	36		
通学 科目共	卒業 研究	グローバル共創科学卒業研究	4通	6	
小計(1科目)	—	6	0		

卒業要件及び履修方法	
必修科目61単位、選択科目63単位（うち教養科目から11単位以上、外国語科目から2単位以上、数理・データサイエンス科目から1単位以上、地域・グローバル演習科目から5単位以上、共創科学コア科目から18単位以上、コース専門科目から18単位以上）の計124単位以上を修得すること。なお、教養科目の選択科目のうち、教養展開科目から4単位を選択必修とする。	

卒業要件及び履修方法	
必修科目55単位、選択科目69単位（うち教養科目から11単位以上、グローバル系科目から6単位以上、データサイエンス系科目から2単位以上、人文・社会科学系科目から8単位以上、自然科学系科目から8単位以上、コース専門科目から26単位以上）の計124単位以上を修得すること。なお、教養科目の選択科目11単位のうち、教養展開科目から4単位、また、コース専門科目の選択科目26単位のうち、3年時から選択するコースに応じた研究Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱの4科目計8単位を選択必修とする。	

授業科目名	国際地域共生概論 A (静岡・日本)						
担当教員名	江口 昌克			分担教員名	須藤 智、石川 宏之、池田 恵子、 立花 由美子、村田 真一		
学期	後期	必修選択区分	必修	対象年次	1年	単位数	2
キーワード	国際地域課題・資源の発見と地域の共生、地域連携、専門的視座、アクティブ・ラーニング						
授業の目標	<p>以下の項目について到達することを目標とする。</p> <p>1)国際地域の問題・課題を発見・解決するために必要な幅広い教養を身につける。</p> <p>2)国際地域の問題・課題を発見・解決するために必要な専門的知識の一部を身につける。</p> <p>3)国際地域現場と直接関わる人々から直接学ぶことで、地域の問題・課題の本質を理解することができる。</p> <p>4)国際地域現場と直接関わる人々から直接学ぶことで、地域の問題・課題に積極的な関心を持ち続けることができる。</p> <p>5)国際地域社会の一員としての意識を持ち、多様な価値に基づいて他者や地域社会の発展のために行動するための素養と動機を身につける。</p>						
学習内容	多様な国際地域課題の問題構造について分析し共創的に解決するため、静岡を起点とした県内・国内の具体的事例における種々のアプローチを学ぶ。						
授業計画	<p>第1回 江口昌克 ガイダンス・国際地域共生とは</p> <p>第2回 須藤 智 地域共生へのアプローチ①高齢社会を想定した地域共生へのアプローチ</p> <p>第3回 石川宏之 地域共生へのアプローチ②防災教育や観光振興に自然・文化遺産を活かした地域づくり</p> <p>第4回 池田恵子 地域共生へのアプローチ③「防災まちづくり」にみる地域づくりの可能性</p> <p>第5回 立花由美子 地域共生へのアプローチ④ アートと地域のかかわり</p> <p>第6回 村田真一 地域共生へのアプローチ⑤「スポーツ」と「地域づくり」の関係について考える</p> <p>第7回－14回 江口昌克 静岡県内における、自治体、民間企業、NPO 団体をゲストスピーカーとして招き、地域共生のプロセスとその完成形を提示する。以下のテーマを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県におけるコミュニティづくりの現状と課題」(静岡県経営管理部地域振興局) ・「行政側面からの地方創生について～地方創生と地方自治～」(静岡県経営管理部市町 						

	<p>財政課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県の社会資本整備計画」(静岡県交通基盤部政策監室) ・「伊豆市における地域課題解決の取り組み」NPO 法人サプライズ ・「学生が参画する地域づくり」(グローバル人財サポート浜松) ・「持続可能な地域をつくる～課題解決から価値創造・魅力向上へ～」(社団法人SACLABO) ・「農業と農村の魅力発信～NPO 法人とうもんの会の取り組み～」(NPO とうもんの会) ・「民間企業による地域貢献・社会貢献～御前崎市における地域づくりの取り組み～」(静岡カントリー浜岡コース&ホテル/一般社団法人しずおかスポーツプロモーション) <p>第15回 江口昌克 国際地域共生の課題と展望</p>
受講要件	特になし
テキスト	特に指定しない。
参考書	<p>静岡大学人文社会科学部・地域創造学環編(2019),『大学的静岡ガイド こだわりの歩き方』, 昭和堂</p> <p>上記に加え、テーマに即して適宜アナウンスする。</p>
予習・復習について	<p>身近な地域と自身の生活との関連を意識し授業に臨むこと。また、授業時に配布された資料および紹介された参考文献を読み込み理解を深めること。なお、事前に資料を配付し、授業開始までに読んでくることを課す場合がある。</p>
成績評価の方法・基準	<p>成績評価は以下のように行う。</p> <p>①毎回提出するコメントペーパー(40%) 各専門領域における地域課題のとらえ方(視座)の理解度を中心に評価する。</p> <p>②期末に提出するレポート(60%)</p>

授業科目名	国際地域共生概論 B (アジア・オセアニア)						
担当教員名	池田 恵子			分担教員名	川崎 和也		
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	2年	単位数	2
キーワード	地域研究、アジア、オセアニア、グローバルとローカル、移動、民族問題、ジェンダー、政治経済、開発、環境						
授業の目標	この授業では、アジア・オセアニア地域についての知識を深めることに加えて、多角的な視野から国際社会や地域社会の現状、関係性、動態的变化などを理解するための視点と手法を学修することを目的とする。また、グローバル社会や地域社会の一員としての意識を持ちながら、多様な価値観にもとづいて、社会のために行動するための素養と動機を身につけることを目指す。						
学習内容	<p>この授業では、多角的な視点からアジア・オセアニア地域の政治経済、歴史、文化、社会について学修する。</p> <p>第1回～第8回（池田担当）：地球規模の課題、多様性と包摂、持続可能性という現代的課題のキーワードからアジア地域の課題を俯瞰的に取り上げ、私たちが暮らす日本社会との関係を理解する。</p> <p>第9回～第15回（川崎担当）：この授業では、まずオセアニアと日本との関わりを学修し、私たちがオセアニア地域について学ぶことの意味や目的を理解する。そのうえで、この授業では、開発や政治経済、民族問題など、現代オセアニア地域が直面する問題を取り上げ、オセアニア地域についての幅広い知識と深い知識を身につける。</p>						
授業計画	<p>第1回 導入：この授業の見通し、情報・資料の活用について</p> <p>第2回 変動する世界への認識とアジア地域</p> <p>第3回 地球規模の課題とアジア ①経済成長と格差</p> <p>第4回 地球規模の課題とアジア ②越境する企業</p> <p>第5回 多様性と包摂 ①移動する人々（フィリピン、インドネシア）</p> <p>第6回 多様性と包摂 ②変わりゆくジェンダー規範（韓国・インド）</p> <p>第7回 持続可能性 ①自然災害と共存（バングラデシュ）</p> <p>第8回 持続可能性 ②豊かさと環境をめぐって（中国・インド）</p> <p>第9回 オセアニアと日本</p> <p>第10回 楽園イメージのゆくえ：オセアニア表象の歴史とポリティクス</p> <p>第11回 オセアニアの環境・資源・開発：ソロモン諸島の開発の事例から</p> <p>第12回 極小国家のポリティカル・エコノミー：MIRAB 社会トンガ・サモアの事例から</p> <p>第13回 強いられた国民国家：オセアニアの国家統合と民族問題</p> <p>第14回 ディアスポラと先住民：フィジー諸島のインド移民とフィジー人</p>						

	第 15 回 オーストラリアの多文化主義と先住民アボリジニ
受講要件	なし
テキスト	●第 1 回～第 8 回（池田担当）：なし ●第 9 回～第 15 回（川崎担当）：なし
参考書	●第 1 回～第 8 回（池田担当）： 初回の授業でリーディングリストと参考リンク集を提示する。 ●第 9 回～第 15 回（川崎担当）： 『オセアニア史』（山本真鳥編、山川出版社、2000 年） 『オセアニア学』（吉岡政徳監修、遠藤央ほか編、京都大学学術出版会、2009 年）
予習・復習について	予習・復習とも、授業に関する資料を配布したり、課題を提示したりする。教員の指示に従って、資料を精読し、課題に取り組んだうえで、授業に出席することを求める。
成績評価の方法・基準	池田担当回（第 1 回～第 8 回）を 50 点満点、川崎担当回（第 9 回～第 15 回）を 50 点満点とし、双方を合計して成績評価を行う。 各担当者の配点（50 点満点）の内訳は以下の通り。 ・授業内課題：20 点（各回の授業にて出題） ・課題レポート：30 点 ※ 上記 2 点をもとに評価を行う。授業の目標に対応した評価事項の達成度を評価の基準とする。

授業科目名	地球環境問題と法						
担当教員名	板倉 美奈子			分担教員名	なし		
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	2年	単位数	2
キーワード	気候温暖化枠組条約、地球温暖化対策推進法、パリ協定、気候変動適応法、脱炭素・カーボンニュートラル、生物多様性条約、生物多様性基本法、カルタヘナ議定書、カルタヘナ法、名古屋議定書、ABS 指針、ESG 投資、GX（グリーン・トランスフォーメーション）						
授業の目標	地球環境問題、具体的には環境や自然・遺伝資源の保全と持続可能な利用に関わる国際条約—とくに気候温暖化枠組条約・同京都議定書・パリ協定、生物多様性条約・同カルタヘナ議定書・同名古屋議定書—および関連する国内法令の概要、背景、現状と課題について理解し、SDGs の達成、気候危機への対応、カーボンニュートラルの達成といった喫緊のグローバルな課題に向き合えるような知見を得ること。						
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際環境法の成立過程、概要、基本原則を概観する。 2. 気候温暖化枠組条約、同パリ協定や生物多様性条約、同カルタヘナ議定書、同名古屋議定書や関連する国内法令等の概要、歴史的経緯、論点・課題を概観する。 3. ESG 投資など経済と環境との調和・両立に関わるこれまでの取り組みや論点・課題を概観する。 						
授業計画	第1回・イントロダクション—条約・国内法の形成過程 第2回・国際環境法の成立と展開 第3回・地球環境問題と主要な環境条約 第4回・環境法の基本原則 第5回・環境損害に対する法的責任・1—国際法上の責任 第6回・環境損害に対する法的責任・2—国内法上の責任 第7回・気候温暖化枠組条約・1—条約の概要・京都議定書・地球温暖化対策推進法 第8回・気候温暖化枠組条約・2—パリ協定・気候変動適応法 第9回・気候温暖化枠組条約・3—国内外におけるカーボンニュートラル達成に向けた取り組み 第10回・生物多様性条約・1—条約の概要・生物多様性基本法 第11回・生物多様性条約・2—カルタヘナ議定書・カルタヘナ法 第12回・生物多様性条約・3—名古屋議定書・国際食料遺伝資源条約・ABS 指針 第13回・経済と環境の両立・1—「環境と貿易」問題、「持続可能な発展」、SDGs 第14回・経済と環境の両立・2—グローバル・コンパクト、ESG 投資 第15回・まとめ—GX に向けての法的課題						
受講要件	特になし						

テキスト	指定しない
参考書	西村智朗・山田健吾『ハイブリッド環境法』（嵯峨野書院、2022年）
予習・復習について	予習は不要。授業後、配布資料や参考書などを参照しながらの復習を基本とする。
成績評価の方法・基準	授業期間中に行う小テスト・課題（40%）と期末試験（60%）の採点結果により総合的に評価する。

授業科目名	材料科学						
担当教員名	青木 憲治			分担教員名	下村 勝		
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	3年	単位数	2
キーワード	セルロースナノファイバー (CNF)、バイオマスプラスチック、有機無機ハイブリッド材料、ナノ複合材料						
授業の目標	本講義では、身の回りの電子材料やプラスチック製品などの素材・材料に見られる巨視的な性質や現象を、その構成要素である分子・原子単位から理解する。						
学習内容	現代における素材・材料開発の課題、原料コストの問題、リサイクルにおける回収システム、分別・識別精度の課題等、様々な課題を克服していくことは極めて重要である。本講義では、材料の構造や性質に着目し、その物理的・化学的性質と材料開発方法について学ぶ。特に、工業応用範囲の広い、電子材料とプラスチック材料に着目し、原理から応用に至る知識を獲得する。						
授業計画	①ガイダンス (青木) ②材料科学の視点から考えるバイオエコノミー、サーキュラーエコノミー (青木) ③バイオマス活用の意義 (青木) ④プラスチックの種類と特長、用途 (青木) ⑤複合材料とは (青木) ⑥再生材活用 (自動車、家電、容器・包装) の取り組みと課題 (青木) ⑦バイオマスを利用した複合材料 (青木) ⑧結晶材料とは (下村) ⑨結晶学の基礎 (下村) ⑩結晶の評価方法 (下村) ⑪化学結合と電子バンド (下村) ⑫光吸収と発光 (下村) ⑬欠陥・転位・粒界とは (下村) ⑭固体表面の化学反応 (下村) ⑮講義のまとめ (青木)						
受講要件	特になし						
テキスト	講義資料を配布予定						
参考書	特になし						

予習・復習について	講義前に予習を実施すること。また、講義の後、演習課題を出題するので、課題を実施し、期日までに提出すること。
成績評価の方法・基準	演習問題、レポート等によって評価する。総合評価点が満点の 60%以上の場合を合格とする。

授業科目名	English Presentation						
担当教員名	Steve Redford			分担教員名	Greenidge Darius C		
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	3年	単位数	2
キーワード	プレゼンテーション						
授業の目標	世界を相手に交渉ができ、かつ信頼を得られるレベルの英語でのプレゼンテーション能力を身につける。						
学習内容	この授業では、次の活動を主に行う。1) 英語で良いプレゼンテーションを行うための指導を授業担当者から得る。2) グループで自由な発想でアイデアを出し合ってみる(ブレインストーミング)。3) 受講者によるプレゼンテーション、クラスメイトとの質疑応答。4) プレゼンテーションについて相互評価、授業担当者による評価。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の説明。話題1 導入 (ミニ・プレゼンテーション #1, #2, #3) 2. 授業担当者による話題1 についてのプレゼンテーション; 話題1 について受講者間でディスカッション 3. 受講者によるミニ・プレゼンテーション #1 「尊敬する人」 4. 受講者によるミニ・プレゼンテーション #2 「大きな意味をもつ経験」 5. 受講者によるミニ・プレゼンテーション #3 「喜びをもたらす小さなもの」 6. 授業担当者によるプレゼンテーション 「教育の改善について」; 教育の改善について、受講者は互いに話をしてブレインストーミング 7. 中間プレゼンテーション 「教育の改善について」 8. 中間プレゼンテーション 「教育の改善について」。話題2 導入 (ミニ・プレゼンテーション #4, #5) 9. 授業担当者による話題2 についてのプレゼンテーション; 話題2 について受講者間でディスカッション 10. 受講者によるミニ・プレゼンテーション #4 (「かぼちゃスープの作り方」), 受講者によるミニ・プレゼンテーション #5 「おススメ観光スポット」 11. 受講者によるミニ・プレゼンテーション #4 (「かぼちゃスープの作り方」), 受講者によるミニ・プレゼンテーション #5 「おススメ観光スポット」 その2 12. 受講者によるミニ・プレゼンテーション #4 (「かぼちゃスープの作り方」), 受講者によるミニ・プレゼンテーション #5 「おススメ観光スポット」 受講者によるミニ・プレゼンテーション #4 (「かぼちゃスープの作り方」), 受講者によるミニ・プレゼンテーション #5 「おススメ観光スポット」 その3 13. 授業担当者によるプレゼンテーション 「社会問題」; 話題3 について受講者間でディスカッション 14. 「社会問題」 プレゼンテーション構想。 						

	15. 期末プレゼンテーション「社会問題」
受講要件	特になし
テキスト	教科書は特に指定しない。
参考書	特になし
予習・復習について	良いプレゼンテーションを行うために、受講者は周到に準備することが必要である。
成績評価の方法・基準	ミニ・プレゼンテーション = 30% 中間プレゼンテーション = 20% 期末プレゼンテーション = 30% グループ・ディスカッションや質疑応答への積極的貢献 = 20%

授業科目名	国際地域共生学研究Ⅰ						
担当教員名	国際地域共生学コース担当専任教員		分担教員名	なし			
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	3年	単位数	2
キーワード	国際地域共生学, 研究室巡り, 専門知識, 研究, 国際社会, 地域社会, 多様性, 包摂, 共生						
授業の目標	自らが主眼に置く研究課題に対して, それを解決するのに必要となる専門分野(研究室)を複数選択し, それぞれの分野における専門的知識, 考え方, 技術を習得し, 課題解決に必要な専門分野(研究室)を決定する。						
学習内容	本学部に所属する教員の専門領域を理解した上で, 自らが主眼に置く研究課題と深く関連する研究室(国際地域共生学コース:3研究室, 他コース:2研究室)を選び, 各2回ずつ研究を実施する。研究室選びについては, 学びのアドバイザーと相談し, 決定する。各研究を実施後, 学びのアドバイザーとともに, 立案した研究計画の見直し等を行い, 卒業研究を行うための主及び副指導教員を決定する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各教員の研究紹介(国際地域共生学コース) 2. 各教員の研究紹介(生命圏循環共生学コース) 3. 各教員の研究紹介(総合人間科学コース) 4. 研究計画立案 5. 国際地域共生学コース研究室1における研究活動1 6. 国際地域共生学コース研究室1における研究活動2 7. 他コース研究室1における研究活動1 8. 他コース研究室1における研究活動2 9. 国際地域共生学コース研究室2における研究活動1 10. 国際地域共生学コース研究室2における研究活動2 11. 他コース研究室2における研究活動1 12. 他コース研究室2における研究活動2 13. 国際地域共生学コース研究室3における研究活動1 14. 国際地域共生学コース研究室3における研究活動2 15. 面談, 研究計画見直し, 研究室決定 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習について	各研究室の指導教員が適宜指示する。 また, 学びのアドバイザーと十分相談すること。						
成績評価の方法・基準	研究計画書の内容, 研究への積極性, 理解度, 正確さ, まとめの的確さ等を評価する。						

授業科目名	国際地域共生学研究Ⅱ						
担当教員名	国際地域共生学コース担当専任教員		分担教員名	なし			
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	3	単位数	2
キーワード	国際地域共生学, 研究, 研究手法, 協働, 国際社会, 地域社会, 多様性, 包摂, 共生						
授業の目標	国際地域共生学研究Ⅰで決定した主及び副指導教員の専門分野の知識及び研究手法の深化を図り共創することで, 卒業研究へと展開させる。						
学習内容	自らが主眼に置く研究課題を解決するために必要となる専門分野の文献を調査し, 発表及び討論を経て研究計画を立案する。その研究計画に則って, 主及び副指導教員の下で研究活動を行い, 得られた結果について討論する。第10回目には中間発表を, 第15回目には最終発表を行うことで, 共創による課題解決能を育む。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に対する文献調査の発表 2. 研究課題に対する文献調査の討論 3. 研究計画立案 4. 研究活動（主指導教員研究室, 1回目） 5. 結果に対する討論（主指導教員研究室, 1回目） 6. 研究活動（副指導教員研究室, 1回目） 7. 結果に対する討論（副指導教員, 1回目） 8. 研究活動（主指導教員研究室, 2回目） 9. 結果に対する討論（主指導教員研究室, 2回目） 10. 中間発表 11. 研究活動（副指導教員研究室, 2回目） 12. 結果に対する討論（副指導教員研究室, 2回目） 13. 研究活動（主指導教員研究室, 3回目） 14. 結果に対する討論（主指導教員研究室, 3回目） 15. 最終発表 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習について	主及び副指導教員が適宜指示する。						
成績評価の方法・基準	文献発表の内容（プレゼンテーション, 質疑応答）, 研究計画書の内容, 研究への積極性, 理解度, 正確さ, 中間発表及び最終発表の内容（プレゼンテーション, 質疑応答）等を評価する。						

授業科目名	生命圏循環共生学研究 I						
担当教員名	生命圏循環共生学コース担当専任教員		分担教員名	なし			
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	3年	単位数	2
キーワード	生命圏循環共生学、研究室巡り、実験、調査、専門知識、専門技術、協働						
授業の目標	自らが主眼に置く研究課題に対して、それを解決するのに必要となる専門分野(研究室)を複数選択し、それぞれの分野における専門的知識、考え方、技術を習得し、課題解決に必要な専門分野(研究室)を決定する。						
学習内容	本学部に所属する教員の専門領域を理解した上で、自らが主眼に置く研究課題と深く関連する研究室(生命圏循環共生学コース:3研究室、他コース:2研究室)を選び、各2回ずつ研究を実施する。研究室選びについては、学びのアドバイザーと相談し、決定する。各研究を実施後、学びのアドバイザーとともに、立案した研究計画の見直し等を行い、卒業研究を行うための主及び副指導教員を決定する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各教員の研究紹介(国際地域共生学コース) 2. 各教員の研究紹介(生命圏循環共生学コース) 3. 各教員の研究紹介(総合人間科学コース) 4. 研究計画立案 5. 生命圏循環共生学コース研究室1における研究活動1 6. 生命圏循環共生学コース研究室1における研究活動2 7. 他コース研究室1における研究活動1 8. 他コース研究室1における研究活動2 9. 生命圏循環共生学コース研究室2における研究活動1 10. 生命圏循環共生学コース研究室2における研究活動2 11. 他コース研究室2における研究活動1 12. 他コース研究室2における研究活動2 13. 生命圏循環共生学コース研究室3における研究活動1 14. 生命圏循環共生学コース研究室3における研究活動2 15. 面談、研究計画見直し、研究室決定 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習について	各研究室の指導教員が適宜指示する。 また、学びのアドバイザーと十分相談すること。						
成績評価の方法・基準	研究計画書の内容、研究への積極性、理解度、正確さ、まとめの的確さ等を評価する。						

授業科目名	生命圏循環共生学研究Ⅱ						
担当教員名	生命圏循環共生学コース担当専任教員	分担教員名	なし				
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	3年	単位数	2
キーワード	生命圏循環共生学、研究、研究手法・実験技術、実体験、卒業研究						
授業の目標	生命圏循環共生学研究Ⅰで決定した主及び副指導教員の専門分野の知識及び技術の深化を図り共創することで、卒業研究へと展開させる。						
学習内容	自らが主眼に置く研究課題を解決するために必要となる専門分野の文献を調査し、発表及び討論を経て研究計画を立案する。その研究計画に則って、主及び副指導教員の下で研究活動を行い、得られた結果について討論する。第10回目には中間発表を、第15回目には最終発表を行うことで、共創による課題解決能を育む。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に対する文献調査、発表、討論（1回目） 2. 研究課題に対する文献調査、発表、討論（2回目） 3. 研究計画立案 4. 研究活動（主指導教員研究室、1回目） 5. 結果に対する討論（主指導教員研究室、1回目） 6. 研究活動（副指導教員研究室、1回目） 7. 結果に対する討論（副指導教員、1回目） 8. 研究活動（主指導教員研究室、2回目） 9. 結果に対する討論（主指導教員研究室、2回目） 10. 中間発表 11. 研究活動（副指導教員研究室、2回目） 12. 結果に対する討論（副指導教員研究室、2回目） 13. 研究活動（主指導教員研究室、3回目） 14. 結果に対する討論（主指導教員研究室、3回目） 15. 最終発表 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習について	主及び副指導教員が適宜指示する。						
成績評価の方法・基準	文献発表の内容（プレゼンテーション、質疑応答）、研究計画書の内容、研究への積極性、理解度、正確さ、中間発表及び最終発表の内容（プレゼンテーション、質疑応答）等を評価する。						

授業科目名	総合人間科学研究 I						
担当教員名	総合人間科学コース担当専任教員			分担教員名	なし		
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	3	単位数	2
キーワード	総合人間科学, 研究室巡り, 専門知識, 研究, スポーツ科学, 心理学, 法学, 哲学, 倫理学						
授業の目標	自らが主眼に置く研究課題に対して, それを解決するのに必要となる専門分野(研究室)を複数選択し, それぞれの分野における専門的知識, 考え方, 技術を習得し, 課題解決に必要な専門分野(研究室)を決定する。						
学習内容	本学部に所属する教員の専門領域を理解した上で, 自らが主眼に置く研究課題と深く関連する研究室(総合人間科学コース:3研究室, 他コース:2研究室)を選び, 各2回ずつ研究を実施する。研究室選びについては, 学びのアドバイザーと相談し, 決定する。各研究を実施後, 学びのアドバイザーとともに, 立案した研究計画の見直し等を行い, 卒業研究を行うための主及び副指導教員を決定する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各教員の研究紹介(総合人間科学コース) 2. 各教員の研究紹介(国際地域共生学コース) 3. 各教員の研究紹介(生命圏循環共生学コース) 4. 研究計画立案 5. 総合人間科学コース研究室1における研究活動1 6. 総合人間科学コース研究室1における研究活動2 7. 他コース研究室1における研究活動1 8. 他コース研究室1における研究活動2 9. 総合人間科学コース研究室2における研究活動1 10. 総合人間科学コース研究室2における研究活動2 11. 他コース研究室2における研究活動1 12. 他コース研究室2における研究活動2 13. 総合人間科学コース研究室3における研究活動1 14. 総合人間科学コース研究室3における研究活動2 15. 面談, 研究計画見直し, 研究室決定 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習について	各研究室の指導教員が適宜指示する。 また, 学びのアドバイザーと十分相談すること。						
成績評価の方法・基準	研究計画書の内容, 研究への積極性, 理解度, 正確さ, まとめの的確さ等を評価する。						

授業科目名	総合人間科学研究Ⅱ						
担当教員名	総合人間科学コース担当専任教員		分担教員名	なし			
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	3年	単位数	2
キーワード	総合人間科学, 研究室巡り, 専門知識, 研究, スポーツ科学, 心理学, 法学, 哲学, 倫理学						
授業の目標	総合人間科学研究Ⅰで決定した主及び副指導教員の専門分野の知識及び研究手法の深化を図り共創することで, 卒業研究へと展開させる。						
学習内容	自らが主眼に置く研究課題を解決するために必要となる専門分野の文献を調査し, 発表及び討論を経て研究計画を立案する。その研究計画に則って, 主及び副指導教員の下で研究活動を行い, 得られた結果について討論する。第10回目には中間発表を, 第15回目には最終発表を行うことで, 共創による課題解決能を育む。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に対する文献調査の発表 2. 研究課題に対する文献調査の討論 3. 研究計画立案 4. 研究活動 (主指導教員研究室, 1回目) 5. 結果に対する討論 (主指導教員研究室, 1回目) 6. 研究活動 (副指導教員研究室, 1回目) 7. 結果に対する討論 (副指導教員, 1回目) 8. 研究活動 (主指導教員研究室, 2回目) 9. 結果に対する討論 (主指導教員研究室, 2回目) 10. 中間発表 11. 研究活動 (副指導教員研究室, 2回目) 12. 結果に対する討論 (副指導教員研究室, 2回目) 13. 研究活動 (主指導教員研究室, 3回目) 14. 結果に対する討論 (主指導教員研究室, 3回目) 15. 最終発表 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習について	主及び副指導教員が適宜指示する。						
成績評価の方法・基準	文献発表の内容 (プレゼンテーション, 質疑応答), 研究計画書の内容, 研究への積極性, 理解度, 正確さ, 中間発表及び最終発表の内容 (プレゼンテーション, 質疑応答) 等を評価する。						

授業科目名	国際地域共生学演習 I						
担当教員名	国際地域共生学コース担当専任教員	分担教員名	なし				
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	4年	単位数	2
キーワード	国際地域共生学, 卒業研究, 国際社会, 地域社会, 多様性, 包摂, 共生						
授業の目標	国際地域共生学研究 II で修得した研究技能と研究成果を土台に, 自身の卒業研究のテーマに関する背景学習を行い, 研究テーマを決定する。主指導教員の指導により卒業研究を推進する。						
学習内容	国際地域共生学コースの所属研究室にて, 主指導教員とともに卒業論文のテーマを設定し, 研究の背景に関する文献調査とその報告を行うとともに, 主指導教員及び研究室のメンバーと議論を重ねることで, 卒業研究の適切な計画を検討し, 確定する。各自が作成した研究計画に基づき, 研究を推進する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究テーマに関する主要概念・施策の関連文献の発表及び討論 2. 卒業研究テーマに関する研究手法の関連文献の発表及び討論 3. 卒業研究計画の見直し、確定 4. 研究計画書に関する討論 5. 卒業研究の進捗状況（調査等の設計）の発表 6. 卒業研究の進捗状況（調査等の設計）の討論 7. 卒業研究の中間発表 8. 外部有識者との討論 9. 卒業研究の進捗状況（調査等の開始）の発表 10. 卒業研究の進捗状況（調査等の開始）の討論 11. 卒業研究の進捗状況（調査等の継続）の発表 12. 卒業研究の進捗状況（調査等の継続）の討論 13. 卒業研究に関連する最新文献の発表及び討論 14. 卒業研究の前期成果発表に向けたデータ整理及び討論 15. 卒業研究の前期成果発表 						
受講要件	特になし						
テキスト	担当教員ごとに指示する						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習に	自身の研究に関連する文献、特に主指導教員の専門分野の文献を積極的に探して読み進						

ついて	める。
成績評価の方法・基準	背景学習やそのまとめと報告，自身で立案した研究計画や研究結果のまとめの発表姿勢，内容の理解度，正確さ，まとめの的確さ，質疑応答等を評価する。

授業科目名	国際地域共生学演習Ⅱ						
担当教員名	国際地域共生学コース担当専任教員	分担教員名	なし				
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	4年	単位数	2
キーワード	国際地域共生学, 卒業研究, 総合知, 共創科学, 文献調査, プレゼンテーション						
授業の目標	卒業研究を完成させ、「共創」という手法を身につけるべく、国際地域共生学演習Ⅰの履修により主指導教員の指導で推進した研究に加え、副指導教員の指導の下で複眼的視点から研究を深化させ、研究成果をまとめる。						
学習内容	国際地域共生学演習Ⅰで主指導教員の指導の下で得られた研究成果を土台に、副指導教員の指導も得て、異なる専門領域の知見を用いて複眼的な視点から卒業研究を発展的に実施する。得られた研究成果を、主及び副指導教員、及び外部有識者と議論を重ねて、自身の研究成果を適切にまとめる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究テーマに関して副指導教員の専門分野の文献の発表 2. 卒業研究テーマに関して副指導教員の専門分野の文献の討論 3. 卒業研究の進捗状況の発表（副指導教員，1回目） 4. 卒業研究の進捗状況の討論（副指導教員，1回目） 5. 外部有識者との討論 6. 卒業研究計画の見直しと討論（主及び副指導教員） 7. 中間発表に向けた研究データ整理（主及び副指導教員） 8. 卒業研究の中間発表 9. 卒業研究の進捗状況の発表（副指導教員，2回目） 10. 卒業研究の進捗状況の討論（副指導教員，2回目） 11. 卒業研究の進捗状況の発表（主指導教員，2回目） 12. 卒業研究の進捗状況の討論（主指導教員，2回目） 13. 卒業研究の補足的な研究データ整理（主及び副指導教員） 14. 卒業論文発表会資料作成 15. 卒業研究発表会リハーサル 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習に	自身の研究に関連する文献、特に副指導教員の専門分野の文献を積極的に探して読み進						

ついて	め、卒業研究に適宜引用してまとめる。その他、主及び副指導教員が適宜指示する。
成績評価の方法・基準	文献発表内容、共創により得られた研究結果のまとめの発表姿勢、内容の理解度、正確さ、まとめの的確さ、プレゼンテーション内容等を評価する。

授業科目名	生命圏循環共生学演習 I						
担当教員名	生命圏循環共生学コース担当専任教員	分担教員名	なし				
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	4年	単位数	2
キーワード	生命圏循環共生学, 卒業研究, 文献調査, プレゼンテーション						
授業の目標	自身の卒業研究のテーマを決定すべく背景学習を行い, これを基に研究テーマを決定する。研究活動において得られた成果を正しくまとめるとともに主指導教員, 研究室メンバー及び外部有識者と討論を行うことで, 自身の研究の進捗状況を正しく理解する。また, テーマと関連する最新文献を理解し, それを発表及び討論することで, 最新情報を上手く活用する能力を育む。研究成果については中間発表としてまとめ, 発表及び討論することで, プレゼンテーションスキルを磨く。						
学習内容	生命圏循環共生学コースの所属研究室にて, 主指導教員とともに卒業論文のテーマを設定し, 研究の背景に関する文献調査とその報告を行うとともに, 主指導教員, 研究室のメンバー及び外部有識者と議論を行い, 適切な計画に沿って, 卒業研究を実施する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究テーマ決定のための関連文献の発表及び討論 (主指導教員) 2. 卒業研究テーマ決定のための関連文献の発表及び討論 (研究室全体) 3. 卒業研究テーマ決定のための関連総説の発表及び討論 (主指導教員) 4. 卒業研究計画立案 5. 研究計画書に関する討論 6. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論 (主指導教員, 1回目) 7. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論 (研究室全体, 1回目) 8. 卒業研究 中間発表 (1回目) 9. 外部有識者との討論 10. 卒業研究に関連する最新文献の発表及び討論 (研究室全体, 1回目) 11. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論 (主指導教員, 2回目) 12. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論 (研究室全体, 2回目) 13. 卒業研究に関連する最新文献の発表及び討論 (研究室全体, 2回目) 14. 卒業研究中間発表に向けたデータ整理及び討論 15. 卒業研究 中間発表 (2回目) 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						

予習・復習について	自身の研究に関連する文献，特に主指導教員の専門分野の文献を積極的に探して読み進める。自身の結果と調べて学んだ背景学習をもとに議論を進める。その他，主指導教員が適宜指示する。
成績評価の方法・基準	背景学習やそのまとめと報告，自身で立案した研究計画や研究結果のまとめの発表姿勢，内容の理解度，正確さ，まとめの的確さ，質疑応答等を評価する。

授業科目名	生命圏循環共生学演習Ⅱ						
担当教員名	生命圏循環共生学コース担当専任教員		分担教員名	なし			
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	4年	単位数	2
キーワード	生命圏循環共生学，卒業研究，総合知，共創科学，文献調査，プレゼンテーション						
授業の目標	卒業研究を完成させ、「共創」という手法を身につけるべく，生命圏循環共生学演習Ⅰで学修した主指導教員の指導に加え，副指導教員の指導の下，副指導教員の専門分野の文献を調査し，それを発表及び討論する。さらに，主及び副指導教員の下，生命圏循環共生学演習Ⅰ及びⅡを通して得られた研究成果を正確にまとめる。						
学習内容	生命圏循環共生学演習Ⅰの主指導教員の指導に引き続き，副指導教員の指導の下，卒業研究を適切な方法で実施し，卒業論文を作成するために必要な文献調査とその報告を行う。共創により得られた成果を，主及び副指導教員，研究室のメンバー及び外部有識者と議論を重ね，自身の研究成果を適切にまとめる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 副指導教員の専門分野の文献の発表及び討論（1回目） 2. 副指導教員の専門分野の文献の発表及び討論（研究室全体，1回目） 3. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論（副指導教員，1回目） 4. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論（研究室全体，1回目） 5. 外部有識者との討論 6. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論（主指導教員，1回目） 7. 卒業研究計画の見直しと討論（主及び副指導教員） 8. 中間発表 9. 副指導教員の専門分野の文献の発表及び討論（副指導教員，2回目） 10. 副指導教員の専門分野の文献の発表及び討論（研究室全体，2回目） 11. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論（副指導教員，2回目） 12. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論（主指導教員，2回目） 13. 卒業研究の進捗状況の発表及び討論（研究室全体，2回目） 14. 卒業論文発表会資料作成 15. 卒業研究発表会リハーサル 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						

予習・復習について	自身の研究に関連する文献，特に副指導教員の専門分野の文献を積極的に探して読み進め，卒業研究に適宜引用してまとめる。その他，主及び副指導教員が適宜指示する。
成績評価の方法・基準	文献発表内容，共創により得られた研究結果のまとめの発表姿勢，内容の理解度，正確さ，まとめの的確さ，プレゼンテーション内容等を評価する。

授業科目名	総合人間科学演習 I						
担当教員名	総合人間科学コース担当専任教員		分担教員名	なし			
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	4年	単位数	2
キーワード	総合人間科学, 卒業研究, スポーツ科学, 心理学, 法学, 哲学, 倫理学						
授業の目標	総合人間科学研究 II で修得した研究技能と研究成果を土台に, 自身の卒業研究のテーマに関する背景学習を行い, 研究テーマを決定する。主指導教員の指導により卒業研究を推進する。						
学習内容	総合人間科学コースの所属研究室にて, 主指導教員とともに卒業論文のテーマを設定し, 研究の背景に関する文献調査とその報告を行うとともに, 主指導教員及び研究室のメンバーと議論を重ねることで, 卒業研究の適切な計画を検討し, 確定する。各自が作成した研究計画に基づき, 研究を推進する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究テーマに関する主要概念・関連文献の発表及び討論 2. 卒業研究テーマに関する研究手法・関連領域の文献の発表及び討論 3. 卒業研究テーマの見直し, 確定 4. 研究計画書の立案 5. 卒業研究の進捗状況 (調査等の設計) の発表 6. 卒業研究の進捗状況 (調査等の設計) の討論 7. 卒業研究の中間発表 8. 中間発表のフィードバックを踏まえた検討 9. 卒業研究の進捗状況 (調査等の開始) の発表 10. 卒業研究の進捗状況 (調査等の開始) の討論 11. 卒業研究の進捗状況 (調査等の継続) の発表 12. 卒業研究の進捗状況 (調査等の継続) の討論 13. 卒業研究に関連する最新文献の発表及び討論 14. 卒業研究の前期成果発表に向けた資料整理及び討論 15. 卒業研究の前期成果発表 						
受講要件	特になし						
テキスト	担当教員ごとに指示する						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習に	自身の研究に関連する文献, 特に主指導教員の専門分野の文献を積極的に探して読み進						

について	める。
成績評価の方法・基準	背景学習やそのまとめと報告，自身で立案した研究計画や研究結果のまとめの発表姿勢，内容の理解度，正確さ，まとめの的確さ，質疑応答等を評価する。

授業科目名	総合人間科学演習Ⅱ						
担当教員名	総合人間科学コース担当専任教員		分担教員名	なし			
学期	後期	必修選択区分	選択	対象年次	4年	単位数	2
キーワード	総合人間科学, 卒業研究, 総合知, 共創科学, 文献調査, プレゼンテーション						
授業の目標	卒業研究を完成させ、「共創」という手法を身につけるべく、総合人間科学演習Ⅰの履修により主指導教員の指導で推進した研究に加え、副指導教員の指導の下で複眼的視点から研究を深化させ、研究成果をまとめる。						
学習内容	総合人間科学演習Ⅰで主指導教員の指導の下で得られた研究成果を土台に、副指導教員の指導も得て、異なる専門領域の知見を用いて複眼的な視点から卒業研究を発展的に実施する。得られた研究成果を、主及び副指導教員、及び外部有識者と議論を重ねて、自身の研究成果を適切にまとめる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究テーマに関して副指導教員の専門分野の文献の発表 2. 卒業研究テーマに関して副指導教員の専門分野の文献の討論 3. 卒業研究の進捗状況の発表（副指導教員，1回目） 4. 卒業研究の進捗状況の討論（副指導教員，1回目） 5. 外部有識者との討論 6. 卒業研究計画の見直しと討論（主及び副指導教員） 7. 中間発表に向けた研究データ整理（主及び副指導教員） 8. 卒業研究の中間発表 9. 卒業研究の進捗状況の発表（副指導教員，2回目） 10. 卒業研究の進捗状況の討論（副指導教員，2回目） 11. 卒業研究の進捗状況の発表（主指導教員，2回目） 12. 卒業研究の進捗状況の討論（主指導教員，2回目） 13. 卒業研究の補足的な研究データ整理（主及び副指導教員） 14. 卒業論文発表会資料作成 15. 卒業研究発表会リハーサル 						
受講要件	特になし。						
テキスト	特になし。						
参考書	各研究室にて紹介する。						
予習・復習に	自身の研究に関連する文献、特に副指導教員の専門分野の文献を積極的に探して読み進						

ついて	め、卒業研究に適宜引用してまとめる。その他、主及び副指導教員が適宜指示する。
成績評価の方法・基準	文献発表内容、共創により得られた研究結果のまとめの発表姿勢、内容の理解度、正確さ、まとめの的確さ、プレゼンテーション内容等を評価する。

授業科目名	グローバル共創科学卒業研究						
担当教員名	専任教員			分担教員名	なし		
学期	通年	必修選択区分	必修	対象年次	4年	単位数	6
キーワード	人類社会の課題、価値の創造、総合知の活用、共創型人材						
授業の目標	<p>卒業研究は、本学部が目的とする人材像の「共創型人材」、すなわち共創という手法を使いこなし、更にグローバルな視点を踏まえ、課題解決に寄与する『総合知』を生み出すことのできる人材を育てるための集大成として位置付けられる科目である。</p> <p>卒業研究では、各コースの演習Ⅰ及びⅡにて調査・研究したテーマについて、その成果を総合知をもって卒業論文としてまとめることにより、共創型人材としての集大成とすることを目標とする。</p> <p>また、その成果を、学内の卒業研究発表会だけでなく、学会発表や学術論文発表、各種団体への政策提言など、社会へ還元されることを念頭に置く。</p>						
学習内容	<p>各コースの演習Ⅰ及びⅡにて、専門分野の異なる主指導教員と副指導教員による指導のもと調査・研究したテーマについて、その成果を卒業論文にまとめる。</p> <p>論文等は、学内の卒業研究発表会にて発表するとともに、学会発表・学術論文発表、地方公共団体や企業、NPO等への政策提言などを行う。</p>						
授業計画	<p>各コースの演習Ⅰ及びⅡ（国際地域共生学演習Ⅰ・Ⅱ、生命圏循環共生学演習Ⅰ・Ⅱ、総合人間科学演習Ⅰ・Ⅱ）にて得られた成果を卒業論文として完成させ、以下の内容で発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学部内で行われる卒業研究発表会 ② 学会、研究会等における発表 ③ 学術論文、紀要等における発表 ④ 各種団体への政策提言 ⑤ 社会教育の場（講演、講座等）における発表 ⑥ その他、社会への還元と認められるもの <p>なお、②～⑥については必ず1つ以上を行うこととする。</p>						
受講要件	特になし						
テキスト	特になし						
参考書	特になし						
予習・復習について	主及び副指導教員と綿密に相談の上、自ら考え、実行すること。						
成績評価の方法・基準	研究成果の内容、プレゼンテーションの内容、社会への還元度合いによって総合的に評価する。						

授業科目名	データサイエンス基礎						
担当教員名	堀池 徳祐			分担教員名	なし		
学期	後期	必修選択区分	必修	対象年次	1年	単位数	1
キーワード	社会におけるデータ・AI利活用、データリテラシー、統計・数理基礎、分析設計、データ観察、データ分析、データ可視化						
授業の目標	データサイエンスの利活用はこれからのデータ駆動型社会において不可欠な能力となる。本講義では最初にデータの活用事例を学び、データサイエンスの重要性を理解した上でデータ分析の理論的基礎となる統計学の知識と活用法を習得する。そして機械学習の理解へと繋がる分析手法の知識を習得する。						
学習内容	<p>現代社会におけるデータサイエンスの活用事例(授業計画 1)、データ活用の基盤となる統計学に関する知識(授業計画 2~5)や、機械学習に繋がる分析技術(授業計画 6~8)について学ぶ。</p> <p>「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の「応用基礎レベル」のモデルカリキュラム(1.1, 1.2, 1.3, 1.4, 1.5)の内容に相当する。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> データサイエンス活用事例 データ駆動型社会やデータサイエンスの意義について学ぶ。 データの種類、代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差 データ表現・データ可視化の方法について学ぶ。 相関係数、回帰直線 統計・数理の基本概念やデータ分析法を学ぶ。 確率分布、正規分布 データを観察し、その性質を学ぶ。 有意差検定(χ二乗検定、マン・ホイットニー検定、T検定) 客観的に値の比較を行う手法を学ぶ。 クロス集計、回帰分析 属性を掛け合わせて集計するデータ分析手法や、ある事象の発生確率を複数の要因と組み合わせて分析する多変量解析について学ぶ。 ベイズ推論、サポートベクタマシン、時系列分析 機械学習の基本となる考え方を学ぶ。 k近傍法、k平均法、遺伝的アルゴリズム クラスタリング等の考え方を学ぶ。 						
受講要件	無し						

テキスト	初回の講義で説明する。
参考書	初回の講義で説明する。
予習・復習について	初回の講義で説明する。
成績評価の方法・基準	筆記試験 100% 基本的な用語・方法・原理について正確に説明できているか、評価する。

授業科目名	データサイエンス演習						
担当教員名	堀池 徳祐			分担教員名	なし		
学期	後期	必修選択区分	必修	対象年次	1年	単位数	1
キーワード	統計・数理基礎、分析設計、データ観察、データ分析、データ可視化						
授業の目標	統計学やデータ分析の知識を持っていても、コンピュータを用いた実践法を知らなければ、活かすことができない。本講義ではデータサイエンス基礎で学んだ分析法を演習形式で実践することにより、コンピュータを用いた分析の実行方法を修得する。						
学習内容	データサイエンス基礎で学んだ統計解析(授業計画 1~4)や機械学習に関連する分析法(授業計画 5~8)について、コンピュータを用いた演習を行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の「応用基礎レベル」のモデルカリキュラム (1.2, 1.3, 1.4, 1.5) の内容に相当する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表値 (平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差 演習形式で各種代表値の求め方を学ぶ。 2. 相関係数、回帰直線 演習形式で相関係数を2つの集団のデータから算出する方法や、回帰直線を求める方法を学ぶ。 3. 確率分布、正規分布 実際のデータを用いて、データの分布について理解する。 4. 有意差検定 (χ二乗検定、マン・ホイットニー検定、T検定) 演習形式で各種有意差検定の手法を学ぶ。 5. クロス集計 実際のデータを用いて、クロス集計の手法を学ぶ。 6. 回帰分析 演習形式で回帰分析を行い、その手法を学ぶ。 7. ベイズ推論、サポートベクターマシン 演習形式でベイズ推定やサポートベクターマシンによる解析を行い、その手法を学ぶ。 8. k近傍法、k平均法 演習形式で各種クラスタリング手法を学習する。 						
受講要件	無し						
テキスト	初回の講義で説明する。						

参考書	初回の講義で説明する。
予習・復習について	初回の講義で説明する。
成績評価の方法・基準	<p>期末テスト(実習) 50%、毎回の課題 50%</p> <p>コンピュータを用いて基本的な統計分析を実行し、結果を正しく解釈できているか、評価する。</p>

授業科目名	データエンジニアリング基礎						
担当教員名	堀池 徳祐			分担教員名	なし		
学期	前期	必修選択区分	必修	対象年次	2年	単位数	2
キーワード	データ・AI 利活用における留意事項、データ構造、データ駆動型社会とデータサイエンス、ビッグデータとデータエンジニアリング、データ表現、データ収集、データベース、データ加工、IT セキュリティ						
授業の目標	データサイエンス基礎で学んだ「データ」は、そのまま活用することができない。本講義ではデータの種類やデータベース、ネットワーク、システムなどの情報基盤技術に関する知識と、セキュリティ、法務と財務、企業での IT 活用事例などのデータを社会で安全に活用するための知識を修得することを目指す。						
学習内容	ハードウェアやデータベースの種類と利用法（授業計画 1～3）、データを安全に取り扱う技術(授業計画 4～6)、コンピュータシステム(授業計画 7～9)、企業における IT の活用法(授業計画 10～12)、情報と社会の関わり等(授業計画 13～15)について学ぶ。 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の「応用基礎レベル」のモデルカリキュラム（1.1, 2.1, 2.2, 2.3, 2.4, 2.5, 2.6）の内容に相当する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ハードウェア ハードウェアの種類（種々のコンピュータ、入出力デバイス）や特徴について学び、コンピュータに対する理解を深める。 コンピュータで扱うデータ 各種コンテンツ（文字データ、数値データ、画像データ）のデジタル化やコンピュータでどのように情報処理されるかについて理解を深める。 データベース 各種データベース（階層型データベースやリレーショナルデータベース等）の特徴について学び、データ格納技術について理解を深める。 ネットワーク ネットワークの構造と仕組みについて学び、インターネットや LAN 等についての理解を深める。 セキュリティ 暗号化、認証システム、データ管理法を学び、情報セキュリティ技術に関する理解を深める。 セキュリティ パソコンやスマートフォンなどの個人が行うべきセキュリティ対策や企業のシステムが一般的に導入しているセキュリティ対策を学び、リスクマネジメントの技術についての理解を深める。 システムの導入 						

	<p>システム利用目的の明確化、適用範囲や規模の決定、システム導入計画の策定、実装、テストなどのコンピュータシステムの導入プロセスについて学ぶ。</p> <p>8. システムの開発 要件定義、システム設計、プログラミング、動作テストなどのコンピュータシステムの開発プロセスについて学ぶ。</p> <p>9. プロジェクトマネジメントの方法 情報システム開発などのプロジェクト活動に知識、スキル、ツール、技法などを適用して、プロジェクト目標を達成できるように管理する方法について学ぶ。</p> <p>10. 企業活動と IT の活用 運輸、物流、流通、小売業界での IT 技術の活用例を学ぶ。</p> <p>11. 企業活動と IT の活用 交通、金融、生活サービス業界での IT 技術の活用例を学ぶ。</p> <p>12. 企業活動と IT の活用 農業、食品、製造、資源業界での IT 技術の活用例を学ぶ。</p> <p>13. 法務と財務 法務の分野では知的財産権や個人情報保護法など、会社の経営と深く関わる法律の知識について学び、財務の分野では経営の基本や企業の分析方法について学ぶ。</p> <p>14. デジタルトランスフォーメーション等 進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革するための方法について学ぶ。</p> <p>15. まとめ これまでの講義内容を振り返り、総合的な理解を深める。</p>
受講要件	無し
テキスト	初回の講義で説明する。
参考書	初回の講義で説明する。
予習・復習について	初回の講義で説明する。
成績評価の方法・基準	筆記試験 100% 基本的な用語・方法・原理について正確に説明できているか、評価する。

授業科目名	AI 基礎						
担当教員名	八柳 祐一			分担教員名	なし		
学期	後期	必修選択区分	必修	対象年次	2年	単位数	1
キーワード	AI, 人工知能, 機械学習						
授業の目標	「人工知能」という言葉の背景にある技術を理解し, ホワイトボックス化する。						
学習内容	数理・データサイエンス・AI リテラシーレベル 1 章, 応用基礎レベル 3.1~3.6, 3.9 章の内容に関する項目を扱う。具体的には, 人工知能の歴史から始まり, 人工知能を実現するための技術的基盤について学習する。						
授業計画	<p>1) AI の歴史と応用分野, AI と社会に関するテーマとして, 社会で起きている変化, 活用されているデータ, AI の活用領域について学習する</p> <p>2) 人工知能, 機械学習, 深層学習の違いを理解するため, それぞれの手法が得意, および不得意とする問題や, 深層学習の根幹を成すニューラルネットワークの仕組みについて学習する</p> <p>3) 訓練データによる学習を行う教師あり学習, および特徴量の抽出を自ら行う教師なし学習について学習する。また, 特徴量についても解説する</p> <p>4) 機械学習のワークフローその 1 として, 一般に公開されているデータや, Web スクレイピングといった手法によるデータの収集, 及び後行程で行う離散化や対数変換について学習する</p> <p>5) 機械学習のワークフローその 2 として, 収集したデータの解析を行うための数理モデルの作成と学習方法について学習する。また, 学習の際に考慮すべき項目として訓練誤差や繰返し学習について解説する</p> <p>6) 機械学習のワークフローその 3 として, バッチ学習とオンライン学習の違いについて学習する。特に, 学習に必要な時間の最適化, 学習率, ミニバッチによる学習に関して解説を行う。</p> <p>7) 機械学習のワークフローその 4 として, 学習が済んだ人工知能に対する検証方法について学習する。特に, 汎化性能, ホールドアウト検証, K-分割交差検証に関して解説を行う。</p> <p>8) 機械学習のワークフローその 5 として, モデルのチューニングや, 相関と因果について学習する。特に, ハイパーパラメタ, 過学習, 相関関係に関して解説を行う。</p>						
受講要件	特になし						
テキスト	Web で配布予定						

参考書	山口達輝, 松田洋之:「図解即戦力 機械学習&ディープラーニングのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書」, 技術評論社
予習・復習について	後半の実習部分については, 積み重ねで作業を行う。よって, 授業中に行った作業内容について, 次回の授業までに確実に自家菜籠中のものとするよう, 復習をしっかり行うこと。
成績評価の方法・基準	人工知能という概念, および機械学習を自身で実施する場合の手順について理解しているか評価する。 学期末の試験: 100%

授業科目名	AI 演習						
担当教員名	八柳 祐一			分担教員名	なし		
学期	前期	必修選択区分	選択	対象年次	3年	単位数	1
キーワード	AI, 人工知能, 深層学習, ニューラルネットワーク						
授業の目標	ディープラーニングの基礎, およびなぜ学習が可能なのか, そのメカニズムについて理解するとともに, 実際に画像認識を行うニューラルネットワークを完成させる。						
学習内容	数理・データサイエンス・AI リテラシーレベル 4.5~4.9 章, 応用基礎レベル 3.1~3.6, 3.9 章の内容に関する項目を扱う。具体的には, ディープラーニングを実現するために用いられるニューラルネットワークの技術的基盤について学習する。Google が提供するライブラリを用いて実際に稼働するニューラルネットワークを構築し, 一部, 実データを用いた実習も行う。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 脳をモデリングしたニューラルネットワークの概念の導入, およびこれまで 3 度あったブームに沿って, 第 1 世代, 第 2 世代, 第 3 世代のニューラルネットの歴史を振り返る 2) ニューラルネットワークの応用例として, 画像認識を活用した自動運転, 顔認識, 自然言語処理を活用した自動翻訳の成果について紹介する 3) ニューラルネットワークの学習アルゴリズムである誤差逆伝搬法について, 計算グラフ, 連鎖律, 活性化関数, Affine/Softmax レイヤといった概念に触れながら学習する 4) ディープラーニングの代表的アルゴリズムとして, 画像認識に強みがある畳み込みニューラルネットワーク, 時系列データ解析に強みがある再帰型ニューラルネットワークについて学習する。 5) Google Colaboratory を使った実習その 1 として, プログラミング I で学習した使い方の復習, 及び Google ドライブへのファイルアップロード方法, パスを割り当てて Colaboratory 上からファイルを読み書きする方法について学習する。 6) Google Colaboratory を使った実習その 2 として, Google が開発した Keras/TensorFlow を用いた手書き文字の認識を行う人工知能を作成する。 7) Google Colaboratory を使った実習その 3 として, Google が開発した Keras/TensorFlow を用いた洋服類の認識を行う人工知能を作成する。 8) Google Colaboratory を使った実習その 4 として, 授業で開発した人工知能に自身で撮影した写真を認識させる手法を学習する。特に, ノイズ除去などの画像処理が重要であることを理解する。 						
受講要件	AI 基礎, プログラミング演習 I を受講済みであること						

テキスト	Web で配布予定
参考書	山口達輝, 松田洋之:「図解即戦力 機械学習&ディープラーニングのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書」, 技術評論社
予習・復習について	後半の実習部分については, 積み重ねで作業を行う。よって, 授業中に行った作業内容について, 次回の授業までに確実に自家菜籠中のものとするよう, 復習をしっかり行うこと。
成績評価の方法・基準	ディープラーニングのメカニズムについて, その全貌を理解しているか評価する。 学期末の試験: 100%

授業科目名	情報処理・データサイエンス演習						
担当教員名	八柳 祐一			分担教員名	なし		
学期	前期	必修選択区分	必修	対象年次	1年	単位数	2
キーワード	情報機器を用いたコミュニケーション、情報処理、情報倫理、著作権、プログラミング入門、データサイエンス						
授業の目標	現代社会ではデータサイエンスの観点から「情報」を扱うための知識・スキル、データを処理するための知識・スキルの獲得が強く求められている。本授業はデータサイエンス、教養教育の観点から、「情報」を扱うための知識・スキルを獲得するとともに、大学の専門教育の数理・データサイエンス・AI教育の学習で求められるデータ処理に必要な知識・スキルを獲得することを目指す。具体的には、(1) 高校生までに学んできた情報機器の利用のスキルを前提に、大学での専門教育で求められる高度な情報機器を活用した情報処理ができるようになること、(2) 数理・データサイエンス・AI教育の観点からエビデンスベースのレポートニングスキル、データ処理とデータの可視化について今後の専門教育での学修に必要な知識とスキルの獲得を目標とする。						
学習内容	今後の専門教育での学修に必要な高度な情報処理の知識・スキルを扱う。特に、データ処理、データの可視化については、数理・データサイエンス・AI教育の観点から「データ」を扱う知識・スキルを学修する。データ解析の実習では、リアルなテーマの仮想データを用いたチーム学修を行い、実際のデータ解析、解析結果の他者へプレゼンを実施し、リアリティのある学修を行う。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数理・データサイエンス・AI時代の情報環境の整備と情報処理スキル 2. 数理・データサイエンス・AI時代の情報、データの検索スキル 3. 数理・データサイエンス・AI時代の情報倫理・セキュリティ 4. データを用いたエビデンスベースなレポートニング（オンライン上のエビデンス資料の収集方法とレポートニング手法） 5. データを用いたエビデンスベースなレポートニング（高度なレポート手法） 6. 科学的データの処理（ソフトウェアを用いたデータ処理の手法） 7. 科学的データの処理（リアルなデータ（仮想データ）を用いたデータ処理） 8. 科学的データの可視化（ソフトウェアを用いたデータの可視化の手法） 9. 科学的データの可視化（リアルなデータ（仮想データ）を用いたデータの可視化） 10. データ解析演習（リアルなデータ（仮想データ）の解析、チーム演習） 11. データ解析演習（リアルなデータ（仮想データ）の解析） 12. データ解析演習（リアルなデータ（仮想データ）の解析と報告資料の作成） 13. データ解析実習（リアルなデータ（仮想データ）の解析結果のプレゼン） 14. データ解析実習（リアルなデータ（仮想データ）のまとめ） 15. まとめ：数理・データサイエンス・AI時代の情報知識・スキルの活用 						

受講要件	特になし
テキスト	Let's Enjoy Computing[2021]-情報処理-, 静岡大学情報教育プロジェクト編、学術図書出版社、2022
参考書	特になし
予習・復習について	指示された予習・復習は必ず行うこと。
成績評価の方法・基準	授業中に出した課題により総合的に評価する。